

竹中コーポレートレポート2015

Corporate Report 2015



サステナブル社会の実現を目指して当社グループが推し進める事業と取り組みを、コーポレートレポートやWEBでステークホルダーの皆様にお伝えします。

■ 編集方針

「竹中コーポレートレポート2015」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBサイトに掲載しています。これまで発行していた会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行します。

企業WEBサイト
(日本語版/英語版)
www.takenaka.co.jp



- 建築作品
- ソリューション
- 会社情報
- CSR情報 など

企業パンフレット(日本語版/英語版)



コーポレートレポート
(日本語版/英語版)



建築作品集
(和・英併記)



Financial Report
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。
※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

■ 報告対象期間
2014年1月～2014年12月
当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲
竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン
環境省の「環境報告ガイドライン2012年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000 社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行
2015年4月(次回発行予定2016年4月)
なお、より多くの皆様にお読みいただけるよう、WEBサイトでも公開しています。

■ お問い合わせ先
広報部 03-6810-5140

CONTENTS

- 03 トップメッセージ
- 05 会社・グループ概要
- 07 竹中の歩み
- 09 グループCSRビジョン



11 グループ成長戦略

13 特集1 TAKENAKA Sustainable Smart Community

特集2 生産性向上の追求

特集3 建築文化の発信活動

19 事業活動

- 21 建築 — お客様の想いをかたちに
- 25 海外 — お客様のグローバルな展開をサポート
- 27 開発 — 都市・地域再生
- 29 エンジニアリング — 最先端のソリューション
- 31 グループ — 国内主要グループ会社
- 32 技術開発 — 先端技術の創出



33 ステークホルダーとともに

- 35 地球環境 — 美しい地球を未来に遺す
- 37 地域社会 — 地域社会の持続的発展に寄与する
- 39 お客様 — お客様の事業の発展に貢献する
- 41 従業員 / 協力会社 — 従業員、協力会社とともに成長する
-
- 43 マネジメント
- 45 グループ会社
- 47 ステークホルダー・ダイアログ
- 48 第三者意見



49 財務・非財務ハイライト



サステナブル社会の実現に向けて

私たちは「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、創立以来、お客様の期待に応える建築を提供してきました。

企業が社会において担うべき役割は、時代とともに変化しています。世界がいま直面する、気候変動や人口増加をはじめとする地球規模の幾多の課題についても、その解決に貢献することが企業に求められています。

私たちは時代の変化にいつも敏感でありたいと考えています。そのために絶えず人々との対話を重ね、技術の研鑽を続けることで、時代が求める最良のソリューションを提供していきます。そして、人々が安全に安心して暮らすためのまちづくりにグループの総力で貢献し、サステナブル社会を実現することによって、地球の未来につないでいきたいと思えます。

2015年4月
取締役会長 CEO

竹中 統一



先般、名古屋市営地下鉄東山線名古屋駅構内に多量の水が浸入して地下鉄が長時間運休するという事態を招き、地下鉄利用者の皆様をはじめ多くの関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしたことについて改めてお詫び申し上げます。私たち建設業は、常に社会に重大な影響を及ぼす可能性があるということを従業員全員と再度確認し、全社を挙げて再発防止に努めております。

豊かで安心な「まちづくり」

私たち建設業に対する社会の期待は大きく変化しています。震災復興やエネルギー・環境問題などの社会的課題への対応やより強く豊かな国土形成、そして世界の都市・インフラの整備や企業活動のグローバル化など、様々なニーズに確実に応えていくことが求められています。また人々の暮らしや企業活動の多様化に伴い、まちや建物に求められる機能も絶えず高度化・多様化しています。

昨年、私たち竹中グループは「竹中グループCSRビジョン」と「竹中グループメッセージ」を制定しました。社会とお客様の最良のパートナーとして、人々が幸せや喜びを感じることができる豊かで安心な「まちづくり」を通し、グループ全員の力でサステナブル社会の実現に貢献する活動を推進してまいります。

2015年4月
取締役社長 COO

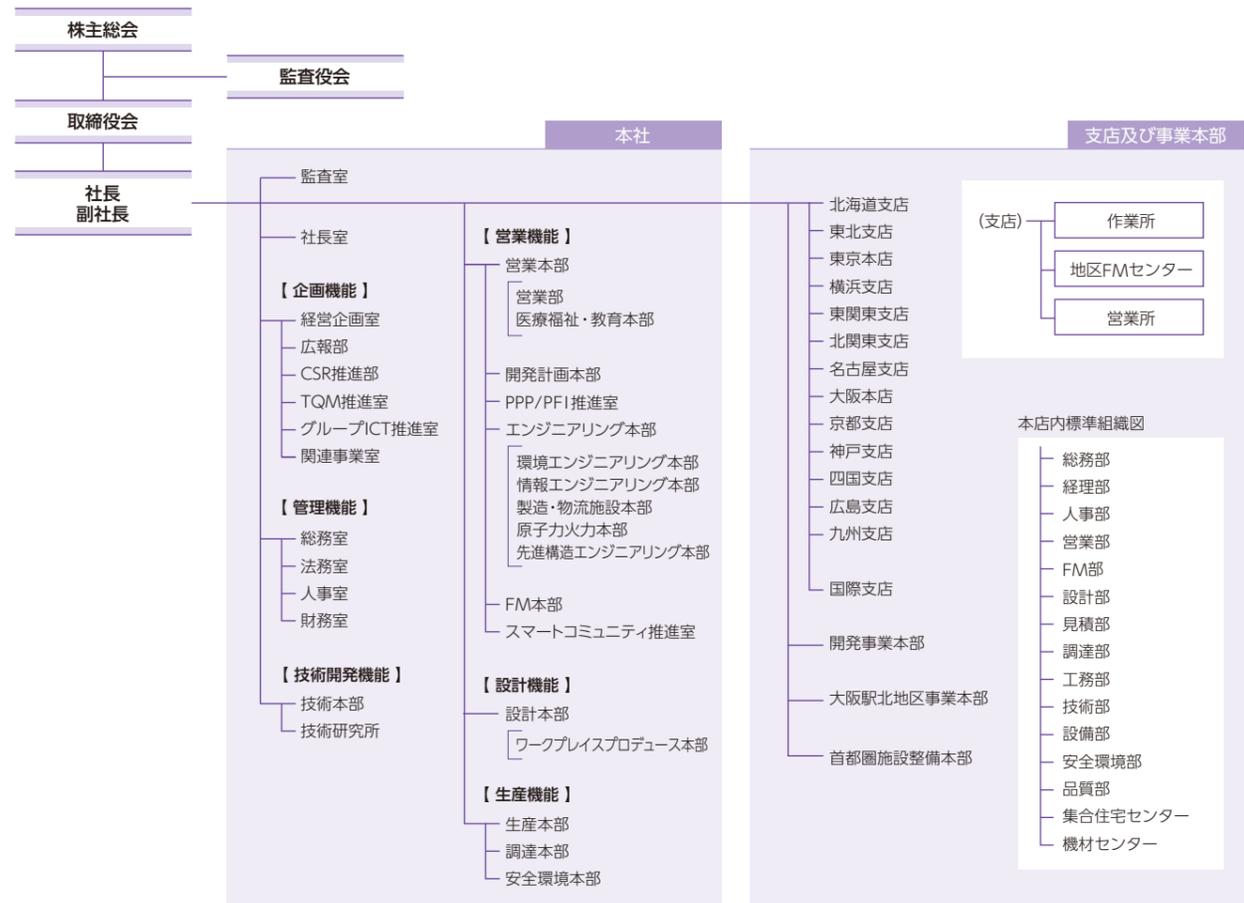
宮下 正裕

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中工務店 会社概要

社名	株式会社 竹中工務店	事業内容	1. 建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理 2. 建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント 3. 土地の造成並びに住宅の建設 4. 不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他
本社所在地	大阪市中央区本町4-1-13	取引銀行	三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ銀行 りそな銀行 三菱UFJ信託銀行 三井住友信託銀行 他
資本金	500億円(2015年3月現在)		
売上高	1兆1,506億円(2014年度連結)		
建設業許可番号	国土交通大臣許可 (特-26、般-26)第2744号		
従業員数	7,436名(2015年1月現在)		
資格者数	1級建築士 ……………2,505 1級建築施工管理技士 ……………2,304 技術士……………156 博士……………111 (2015年1月現在)		

組織図 (2015年4月現在)



国内主要グループ会社 事業内容

海外主要グループ会社を含めた拠点はP25に記載しています

建設事業

株式会社 竹中土木

- ◆ 土木工事

株式会社 竹中道路

- ◆ 道路舗装工事及び舗装資材の製造・販売

株式会社 朝日ビルド

- ◆ 鉄筋工事及び型枠工事

株式会社 東京朝日ビルド

- ◆ 鉄筋工事及び型枠工事

株式会社 TAKイーヴァック

- ◆ 電気・給排水衛生・空調設備工事

株式会社 TAKリビング

- ◆ 木製品の製造・販売及び内装・インテリア工事

株式会社 朝日興産

- ◆ 内・外装工事を主とした工事、建設資材の販売、造園、植樹、緑化の企画・施工、並びに石油製品の販売

マネジメント・エンジニアリング事業

株式会社 アサヒファシリティズ

- ◆ 不動産の管理、損害保険代理及びリース業務

株式会社 TAKシステムズ

- ◆ 建築の設計・施工に関するCAD業務、ICT支援業務

株式会社 TAKエンジニアリング

- ◆ 建築工事に伴うエンジニアリング・マネジメント業務の受託、人材派遣業務、人材紹介業務

株式会社 TAK-QS

- ◆ 建築工事に伴う積算業務の受託

株式会社 クリエイト・ライフ

- ◆ 従業員福利厚生及び総務・人事に関する総合業務受託

株式会社 TAKキャピタルサービス

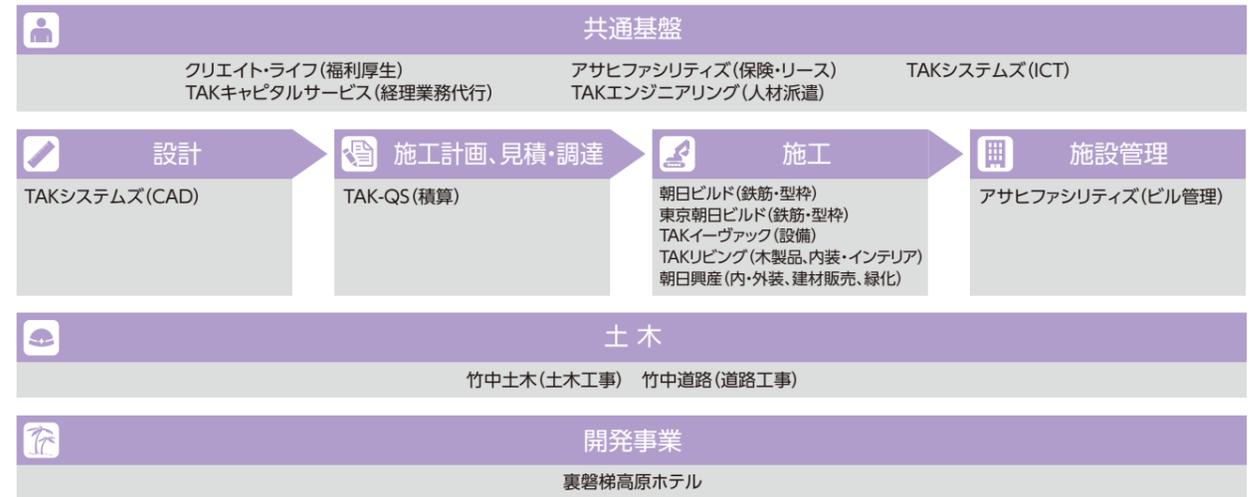
- ◆ ファクタリングサービス及び財務会計業務の受託

開発事業

株式会社 裏磐梯高原ホテル

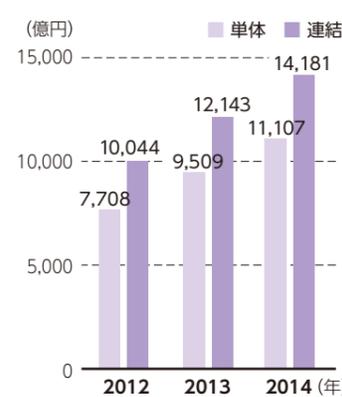
- ◆ リゾートホテル及びスキー場の運営

主要グループ会社の主な活動



業績の推移

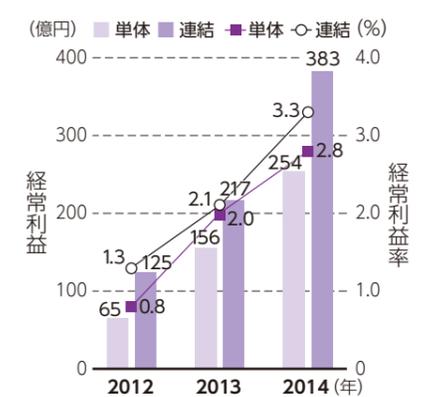
受注高



売上高



経常利益



伝統を受け継ぎ 豊かな未来を拓く

竹中工務店は、1610年(慶長15年)の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる多くの建築物を手掛け社会発展の一翼を担ってきました。建築とは、生命や財産を守る器であると同時に社会の資産であり、その時代の文化を後世に伝え継ぐものである——そうした仕事への誇りを込め、私たちは、携わった建物を「作品」と呼んでいます。これは、宮大工の棟梁だった初代・竹中藤兵衛正高から受け継がれてきた精神で、お客様の想いを第一に考え、建築の専門家として高い技術力を保っていくという考え方です。これまで当社は日本の社会、経済、文化に深くかかわるようなビッグプロジェクトに参画し、数多くの作品やエンジニアリング、技術開発を世に送り出してきました。今後も最良の品質をお届けし、社会の信頼に応え豊かな「まちづくり」を目指し、設計施工一貫方式を進化させ、時代が求める技術開発を積極的に進めていきます。

→ 1950

- 1949年 株式会社 TAKリビング設立。
- 1947年 株式会社 朝日ビルド設立。
- 1943年 株式会社 TAKイーヴァック設立。
- 1941年 株式会社 竹中土木設立。

1937年 株式会社 竹中工務店設立。
資本金150万円。



1927年 一橋大学兼松講堂竣工。



→ 1920

1916年 鉄骨鉄筋コンクリート造の大阪朝日新聞本社竣工。

1912年 商店建築では日本初の鉄筋コンクリート造の高島屋京都店竣工。



1909年 合名会社竹中工務店設立。神戸を本店に名古屋を支店とする。

→ 1900

1900年 三井銀行神戸小野浜倉庫を竣工。



1899年 14代 竹中藤右衛門が神戸に進出、創立第1年とする。

1897年 三井名古屋製糸所竣工。

1884年 三井銀行名古屋出張店竣工。

1874年 維新後次第に洋風建築を手掛け、名古屋鍛冶兵舎竣工。

1610

初代竹中藤兵衛正高 名古屋で創業。神社仏閣の造営を業とする。



→ 1970

1969年 株式会社 アサヒファシリティズ設立。



1963年 国立劇場の設計競技において1等に入選。

1961年 株式会社 竹中道路設立。

1960年 TAKENAKA & ASSOCIATES INC. をサンフランシスコに設立。

1958年 高さ333mの東京タワーを竣工。裏磐梯高原ホテル開業。

1957年 南極観測用施設製作。竹中式潜函工法特許を取得。株式会社 朝日興産設立。



→ 2000

1997年 ナゴヤドーム竣工。

1995年 株式会社 クリエイト・ライフ設立。



1993年 日本初の屋根開閉式多目的スタジアム・福岡 ヤフオク!ドーム竣工。

1992年 日本品質管理賞受賞。



1990年 株式会社 TAKシステムズ設立。マレーシア竹中設立。



1988年 日本初の空気膜構造による多目的スタジアム・東京ドーム竣工。竹中錬一会長がデミング賞本賞を受賞。株式会社 TAKエンジニアリング設立。

1987年 有楽町マリオン竣工。



1986年 第二国立劇場の国際設計競技において最優秀作品に入選。

1979年 竹中工務店を含むASTMグループが提案した戸屋浜シーサイドタウン竣工。

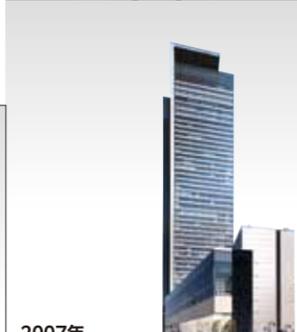


1974年 タイ竹中、インドネシア竹中、シンガポール事務所設立。

1973年 ヨーロッパ竹中設立。

1972年 株式会社 東京朝日ビルド設立。

→ 2007



2007年 中部地方一の高さを誇るミッドランドスクエアが竣工。

東京都心の大型複合施設東京ミッドタウン、新丸の内ビルディングが竣工。



2006年 世界一の高さの超高層免震マンションシティタワー西梅田が竣工。



2003年 中国竹中設立。株式会社 TAK-QS設立。

2002年 株式会社 TAKキャピタルサービス設立。

2001年 アメリカ竹中設立。大分スポーツ公園 大分銀行ドーム、札幌ドーム「Hiroba」が竣工。



→ 2014

2014年 日本建築学会賞(作品)を明治安田生命新東陽町ビルで受賞。

あべのハルカスがオープン。

2013年 グランフロント大阪が竣工。

2012年 大阪の超高層ビル中之島フェスティバルタワーが竣工。



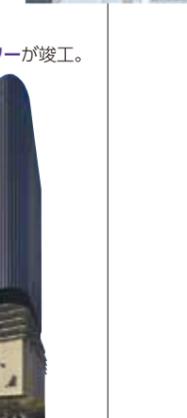
2010年 インド竹中設立。



2009年 創立110周年。三菱一号館の復元及び丸の内パークビルディングが竣工。



2008年 世界初の3棟連結超高層集合住宅アイランドタワースカイクラブが竣工。

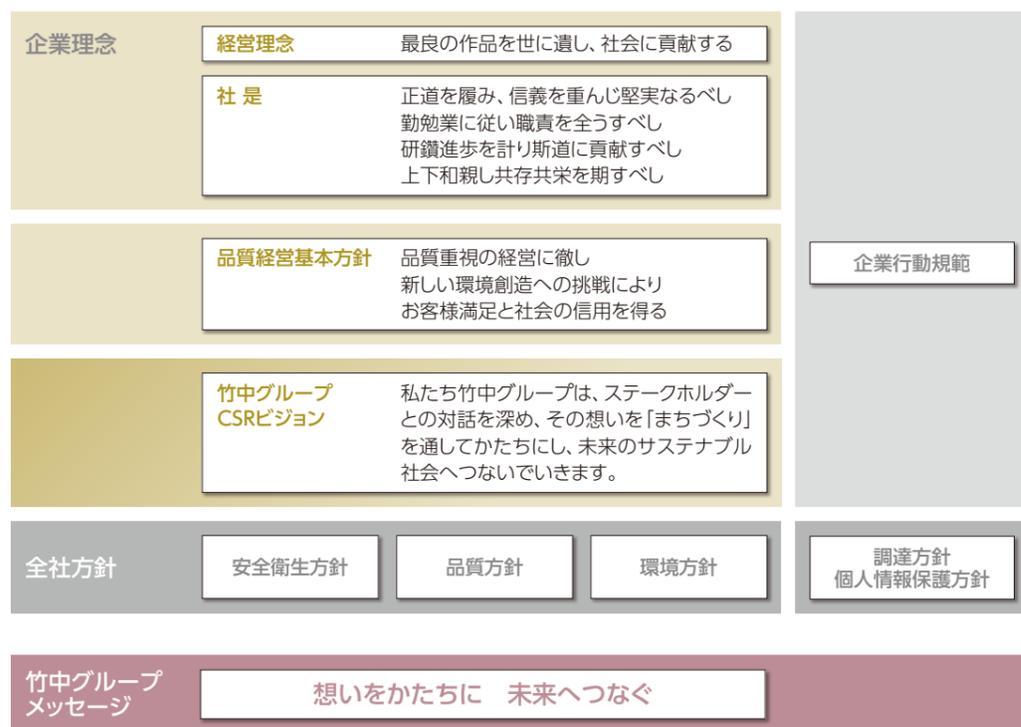


想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続してきました。

しかし、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「エネルギー問題」「災害リスクの増大」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの問題は未来の社会に大きな影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。

こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定めています。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、CSRの行動指針である企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。



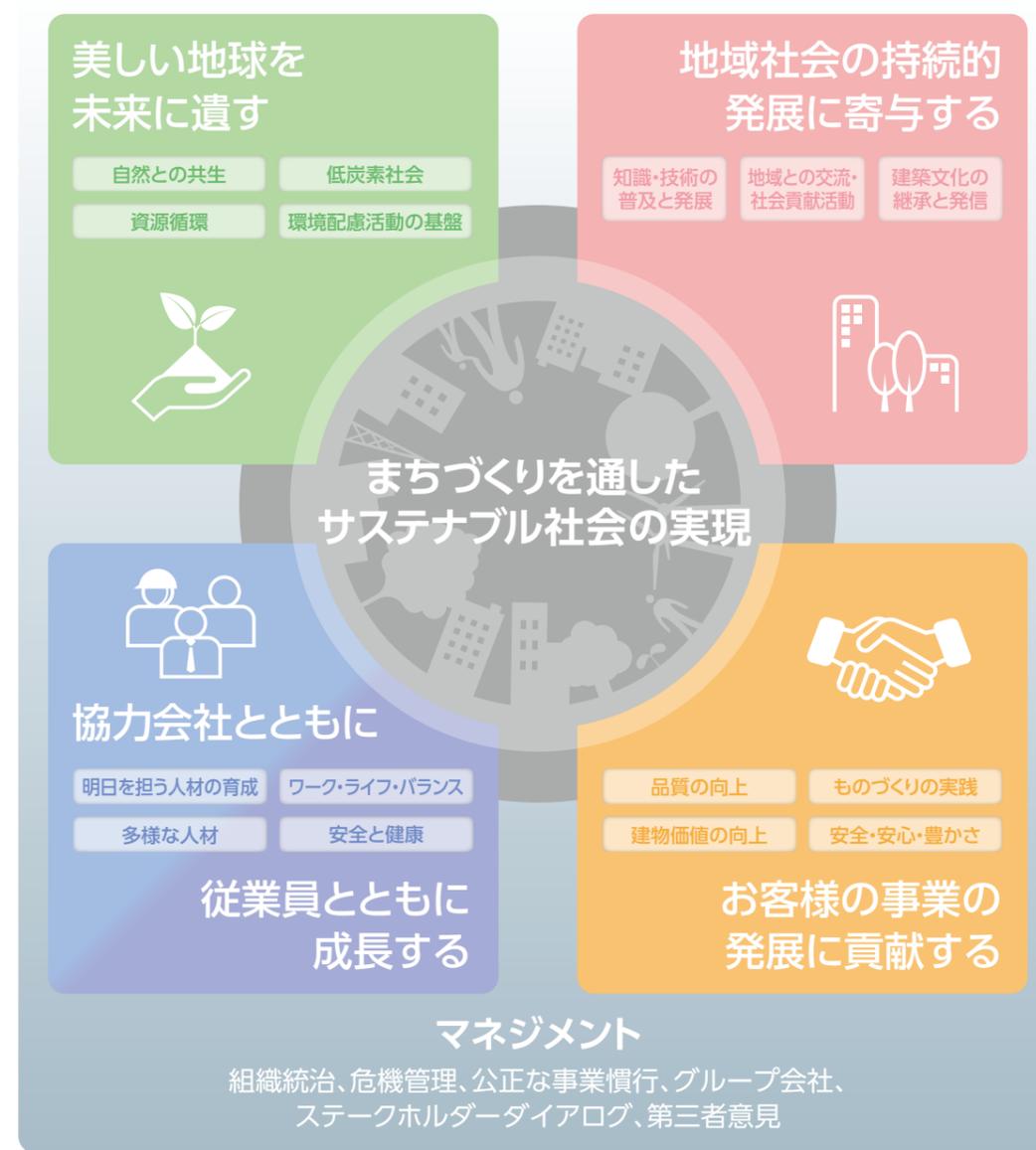
竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、今も未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。そのために、今後ステークホルダーとの対話をより一層深めます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループの事業力を組み合わせ、新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会を実現していきます。

ビジョンを実現するためのステークホルダーの方々との取り組み

「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」など当社のステークホルダーの期待に応えるため、具体的なCSRの取り組みとして15の活動領域と、それを支えるマネジメントの取り組みを企業行動規範とも整合性を取りながら定め、推進しています。これらの取り組みを着実に進めることで様々な社会的課題を解決し、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

ステークホルダーの想いをかたちにし、未来へつなぐための活動領域とそれを支えるマネジメント



お客様の事業活動に、グローバルなスケールで最良のソリューションを提供し、グループの総力でサステナブル社会の実現を目指していきます。

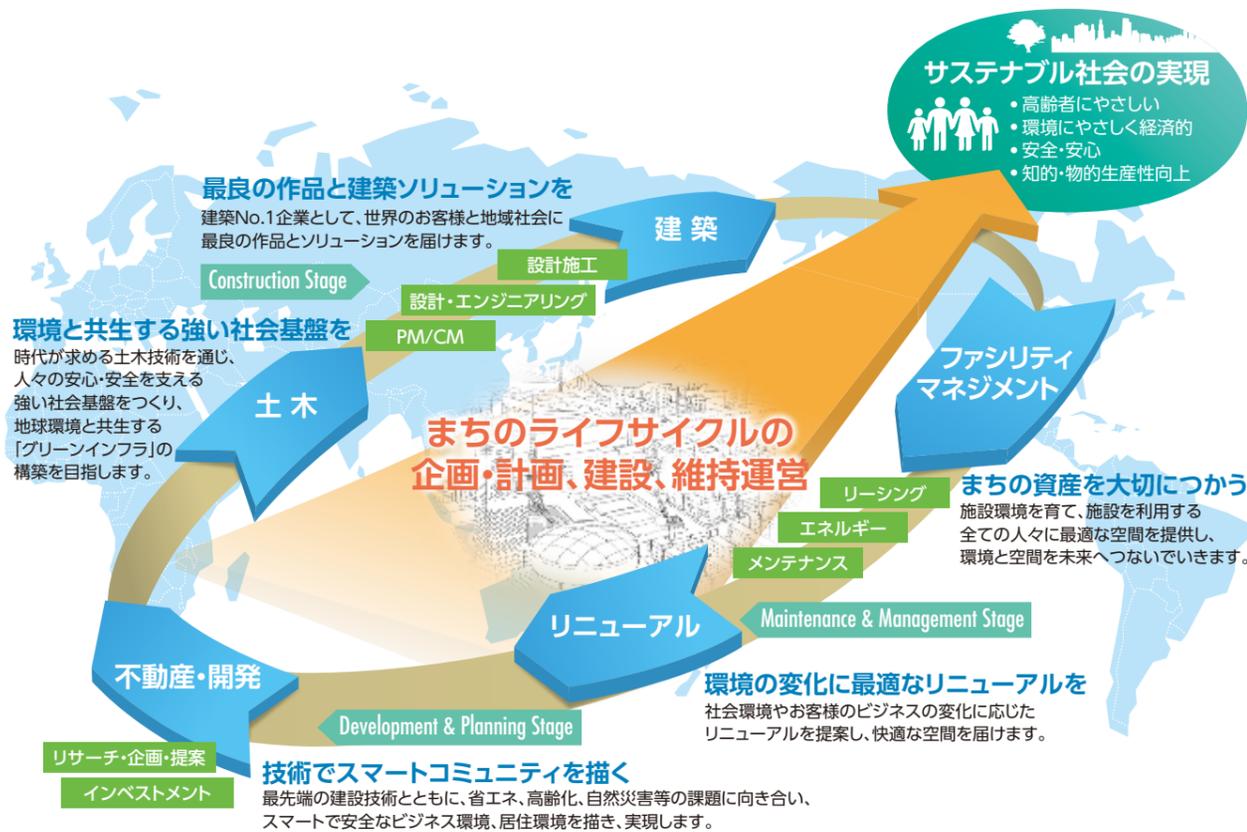
取締役社長 COO
宮下 正裕



2025年のグループ成長戦略： グループで、グローバルに、まちづくりにかかわる

私たちは、国内外における様々な社会の課題を解決し、人々が豊かで明るく、そして安心して暮らすことができるサステナブル社会を実現するという大きな使命があります。そのために、私たちはグループ全体の事業領域を「まち」として

捉え、企画・計画から建設、維持運営まで「まち」のライフサイクル全てにおいて貢献していきます。「まちづくりの全てのステージ」で、グループ各社が緊密に連携して社会とお客様の期待に応え、サステナブル社会の実現を目指します。



■ 新たな価値を創る

「まちづくりの全てのステージ」で貢献していくためには、社会インフラの維持更新やリニューアル・ファシリティマネジメントなどの周辺領域において、グループ各社と緊密に連携して取り組む必要があります。またPFIやPPPのような、民間が主体となった事業形態・発注形態も広がりをみせています。このように、社会が抱える課題やニーズに応えていくことは、私たち

にとつてただ建物をつくることだけではなくていきます。将来に向けて、当社の強みが発揮できる領域への新たなチャレンジも視野に入れ、建設技術とサービスが融合した新しいソリューションで、まちに新たな価値を提供し、社会とお客様にとって最良のパートナーとなることを目指します。



■ 成長に向けてのステップ

グループが一体となり、社会とお客様に新たな価値を提供するためにそれぞれが専門技術やサービスの質を磨き、一歩ずつ成長に向けてのステップを進んでいきます。当3か年(STEP1)ではまず収益基盤の改善を図り、そのうえでグループ連携や生産力の強化を進め、まちづくりに関する新たな価値の創出にリーダーシップを発揮していきます。海外建設事業においても、対応体制を整備し更なる事業の成長を目指します。そして2025年には、社会とお客様にとって最良のパートナーとなることを目指していきます。



■ 昨年1年間の活動の振り返りと、これからの2年間で取り組むこと

2015年は、昨年スタートした3か年計画の2年目となります。本計画においては、業績面で厳しい状況が続く中、収益力の改善と、将来の成長に向けた事業基盤の構築を図ることを掲げました。

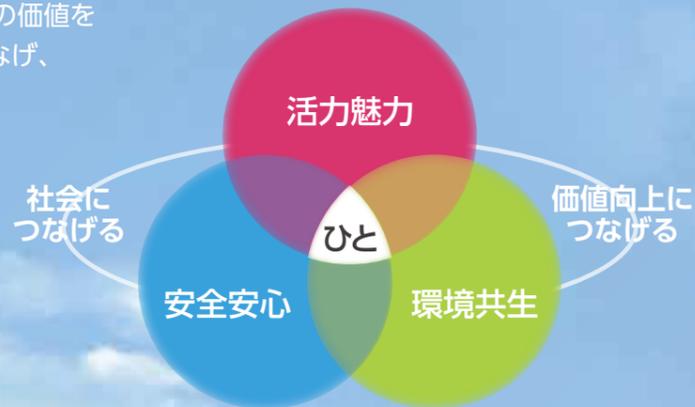
設置し、まちづくりへの対応やグループ連携の強化を図るとともに、震災復興や技術開発、人材育成など幅広い分野において緊密な連携を進めました。海外建設事業においても、グローバル人材の確保や育成など、事業基盤の強化を図っています。これらの活動の着実な推進に加え、市場環境の回復が重なり、当社グループ業績も改善しました。

1年目となる昨年は、BIMやスマートワークの活用、PC化をはじめとする様々な省力化施工の推進により生産性の更なる向上に取り組むとともに、協力会社との協業により生産力の強化を図りました。また、土木事業との震災復興やインフラ関連のプロジェクトでの連携、ファシリティマネジメント、開発事業といった、まちづくりの様々なステージにおけるソリューション力の強化についても取り組みを進めています。組織面では「スマートコミュニティ推進室」や「グループICT推進室」を

2年目となる本年以降も、まずは作業所における確実な労働災害及び公衆災害防止と品質の向上に、引き続き最優先で取り組んでまいります。そのうえで、生産性の向上を更に推し進め、グループ連携や協力会社とのパートナーシップを推進し、引き続き事業基盤の強化を図るとともに、新たな事業領域への挑戦についても取り組みを進め、次期3か年での飛躍に備えてまいります。

TAKENAKA Sustainable Smart Community

当社が目指す「Sustainable Smart Community」とは、人を中心に建物・地域・エネルギー・情報・サービス・ビジネスをつなげ、融通・共有・共創することにより新たな価値を生み出し、「活力魅力」「環境共生」「安全安心」をもたらす持続可能な「まち」であり「社会」のことです。その実現のために、地域社会ごとの課題に対して、ステークホルダーと連携し、「にぎわいの創出」「環境負荷の低減」など9つの価値をコミュニティデザイン力やソリューションでつなげ、新たな価値を創り出して解決していきます。



活力魅力 “つながる”新たな価値

- にぎわいの創出
- コミュニケーションの活性化
- 快適空間の創造

環境共生

- 環境負荷の低減
- エネルギーの低減
- 自然との共生

安全安心

- 人命、資産の確保
- 事業継続性の向上
- 安心の確保

VOICE

地球環境問題の顕在化や東日本大震災を契機として、交通やエネルギーなど都市インフラの課題に対する社会の関心が高まっています。今後は、自然エネルギーや新エネルギーをまちの中で積極的に活用していくこと、ICT技術により様々な都市活動をより効率化するとともに快適かつ魅力的にしていくこと、更にはコンパクトシティへの転換により、少子高齢化社会においても豊かな都市生活が持続できていくことを目標としたまちづくりなどが求められています。ステークホルダーの方々との対話しながら、「活力魅力」「環境共生」「安全安心」の3つの観点から、様々なソリューションを提供し、新しい技術開発を通じて、サステナブル社会につながるスマートコミュニティを実現していきます。

株式会社竹中工務店 執行役員
スマートコミュニティ推進室長
児玉 正孝

最新プロジェクト事例 ▶ 立命館大学大阪いばらきキャンパスでの取り組み



立命館大学が大阪府茨木市に新設した総合キャンパスです。敷地面積約10ha、延床約11万㎡のキャンパスで、最大8千名(将来)を受け入れる計画です。当社は設計(山下設計と共同)及び施工に携わりました。学びの効果を高める工夫を凝らした最新の教育環境整備とともに、地域・社会との多様なつながりを生むハード・ソフトの取り組みにより、地域のまちづくりに寄与するキャンパスを目指しています。

VOICE

大阪いばらきキャンパスでは「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」をコンセプトに掲げ、キャンパス全体をラーニング・プレイスとして学生同士の学び合いや交流、アクティブな学びを育みます。また環境に関して学生が多様な活動を通じて主体的に学べるよう、「エコ・アクション」を誘発する仕掛けをキャンパス内外にちりばめました。竹中工務店メンバーと一緒にアイデアを出し合い、建築のハード・ソフトを組み合わせた様々な工夫を盛り込みながら、それにかかわる産官学、地域の方々ともつながりを築いていくことで、スマートコミュニティから広がる地域・社会連携を実現していきます。

学校法人立命館 総合企画部長 **木田 成也** 様



自社物件での取り組み事例 ▶ 大阪ビジネスパーク



まちの魅力を高めるエリアマネジメント

- まちの集客力アップ 知的生産性の向上
ソトコミ/共用部、外部空間のオフィス利用
- CO₂排出量削減 エネルギーコスト減
地域エネマネと太陽光発電・蓄電池を活用した省エネ
- BCP・DCP強化 共助による災害対応
電気自動車を活用した非常時電源確保と平常時のデマンドコントロール

1986年の街開きから約30年が経過した大阪ビジネスパーク(以下OBP)において、当社はOBP開発協議会の代表幹事として、まちの リ・ブランディングを目指した既存都市リノベーション型のスマートコミュニティ実現に取り組んでいます。具体的には、「OBP「ソトコミ」プロジェクト」(屋内外に省エネで自然が感じられるコミュニティスペースを分散配置し、誘導システムによりワーカーの移動を促し、省エネと知的生産性向上を目指す実証事業)、「OBP「V2X」プロジェクト」(EV・PHVを活用した非常時電源確保と平常時のデマンドコントロールなどの実証事業)を行っています。将来は実証事業で得られた技術をエリア全体に展開してクラウド型EMSサービスでつなぎ、活力魅力・環境共生・安全安心の3つの価値を統合マネジメントすることで持続的に発展する「まち」を目指します。

活力魅力 自ら学ぶ学生がエンジンとなり地域の魅力UPに貢献

環境に対する学生の主体的な学び、気づきの力を高める「エコ・アクション」を誘発するために様々な建築的工夫を行っています。学習環境を自ら快適化する行動(着席位置の移動、屋外利用、窓の開閉など)を促すため、当社独自システム(環境指数の可視化など)を整備しました。更に、隣接するイオン茨木ショッピングセンターと連携し省エネ行動にポイントを付与することにより、地域との関係性を深めて、学生がエンジンとなり幅広い地域・社会連携ネットワークに発展させ、地域全体の魅力アップに貢献していくことも狙いとしています。

環境共生 複数建物連携によるエネルギーの最適化

再生可能エネルギー、コジェネレーション、ソーラークーリング、空冷チャラーをベストミックスさせたエネルギーセンターを配置、複数建物のエネルギー需給状況を最適化するとともに「エコ・アクション」をコントロールすることで、34%の省エネ化を目指します。

安全安心 既存のまちとつながりながら防災力向上

キャンパス内だけでなく、隣接する既存の大型商業施設と連携し、防災公園への非常時電力供給体制を確保します。一部施設の開放、耐震性受水槽、備蓄倉庫、災害トイレ、井水供給など、周辺住民の避難受け入れにも備えています。既存の施設と新たな施設をうまくつながら、まち全体の防災力を高めます。

生産性向上の追求

震災復興と2020年の東京オリンピック・パラリンピック、
 更には国土強靱化や地方創生など、
 建設ニーズはこれからも高水準で推移することが予想されています。

私たちは、お客様のニーズに合致した、
 より高品質で人に優しい建物をお渡すため、
 建物の3次元データの活用(BIM※1)や、
 モバイル端末を用いた新たな業務スタイル(竹中スマートワーク)の推進、
 労務削減と工期短縮を可能にする省力化工法(PC化※2)の展開、
 協力会社との協業の深化や技能労働者の負担低減(“職人DARWING”)など、
 情報技術、建設技術、人間工学と多面的に融合した、
 安全かつ効率的な施工を追求しています。

VOICE

建設技能労働者、特に、躯体職の技能労働者は年々減ってきています。厳しい作業環境や休日出勤などから腰痛などの職業病を患い、仕事ができなくなった技能労働者を見ました。そのような環境の中、がんばっている社員が少しでも楽になればと思い「職人DARWING」の購入を決めました。ウェアを着用することで疲労が軽減し、生産性やモチベーションが上がることを期待しています。初めてウェアを拝見した時、建設業もここまで来たかと感じました。もっとも現場の声を取り入れて「職人DARWING」が進化していき、建設業界に広まってほしいと思います。それにより、一人でも多くの方が建設業界で働くことを期待しています。



福山建設工業株式会社
 代表取締役
福山 正崇 様

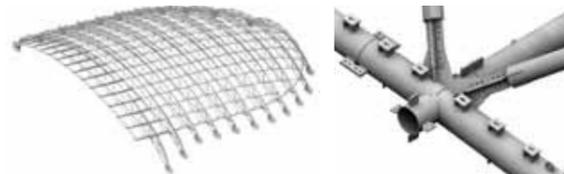
BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)※1の推進

設計施工一貫による3次元モデルの展開

BIMは情報技術を用いた革新的な取り組みとして、今最も注目される先端技術の一つです。当社ではBIMの推進により、建設プロセス全体の生産性向上に取り組んでいます。「やわらぎ森のスタジアム」は、曲面トラス鉄骨を骨組とした膜屋根を有する競技場です。基本計画段階から、設計・生産部門から協力会社まで一貫してBIMを活用し、お客様とスムーズな合意形成を図るとともに、3次元モデルを構造解析と連動させて部材や継手の種類を最少とした他、完成形のイメージが容易になったことで組立図・部品図のより早く正確な作成を可能としました。これらの取り組みにより、鉄骨製作の大幅な効率化と精度確保を実現し、プロジェクト全体の生産性を大きく向上させています。



やわらぎ森のスタジアム(2013)
 2014年スペシャルリコグニションアワード受賞(ベントレー・システムズ社主催)

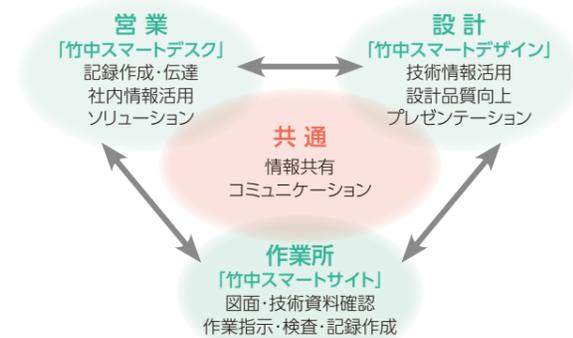


鉄骨製作用3次元モデル

竹中スマートワークの展開

モバイル端末の効果的な活用

当社では、モバイル端末を活用した効率的な業務の進め方を「竹中スマートワーク」と総称し展開しています。その場でスピーディーに必要な情報を引き出せることから、お客様へビジュアルでわかりやすいプレゼンテーションが可能となり、生産性も大いに向上しています。最前線で活躍する従業員を中心に、すでに4,000台以上を配備し、時間の有効活用や書類作成の効率化、部門間連携の強化を図ることで、より密度の高い品質管理につなげています。



竹中スマートワークのイメージ



PC(プレキャスト・コンクリート)化※2の拡大

基礎躯体PC化への挑戦

大幅な労務の削減及び工期短縮を図るため、当社ではPC化をはじめとする省力化工法を推進しています。(仮称)吹田市立スタジアムは、収容人員4万名のサッカー専用スタジアムです。プロジェクトの早い段階から設計職能と生産職能が協業し、様々な省力化工法を駆使することで労務不足の問題を克服し、整然とした建設工事を実現しています。

とりわけ手間のかかる基礎の施工においては、わが国初となる大々的なPC化を推進し、在来工法に比べて現場での作業員数は85%削減、工期は40%短縮することができました。スタンドの施工においては、複雑な形状の梁や段床などの大部分をPC化し、大幅な生産性向上を図るとともに、精度向上につなげています。



仮称：吹田市立スタジアム(2015)



基礎PC施工状況

協力会社との協業の深化

一人ひとりの建設技能労働者とともに

当社の設計施工プロジェクトでは、着工前の早期に作業所と協力会社が協業し、生産性への配慮を設計図書に反映させる取り組みを進めています。「竹中技術実務研修センター 想」では、協力会社の職長を対象とした品質向上研修を開催しています。そこでは講師である構造設計者との相互理解を深め、設計者は施工しやすい設計を、職長は設計意図をよく理解し間違いのない施工を、より効率的に進めることを学びます。

また、技能労働者の体力的負担の低減のため、ダイワ工業株式会社と共同で、「疲労軽減ウェア“職人DARWING(ダーウィン)”」を開発しました。当社では、より多くの技能労働者に対して着用を促進することで、建設作業における労働環境の改善を推進し、生産性向上につなげていきます。



“職人DARWING”

※1: BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)
 建物の3次元モデルに、材質やコストなどのデータを追加した建物のデータベース。また、これを設計・施工・維持管理といった建物ライフサイクル全ての段階において活用する業務プロセスのこと。

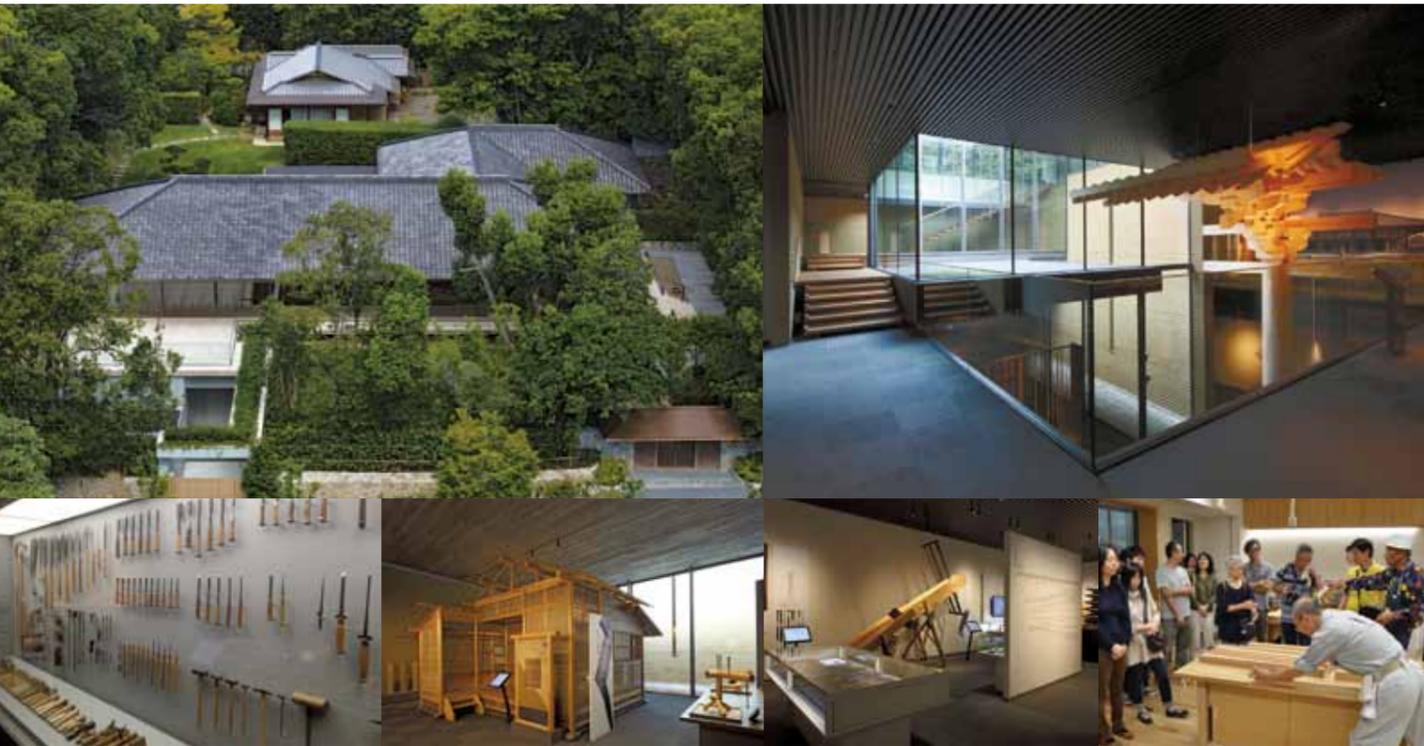
※2: PC(プレキャスト・コンクリート)化
 あらかじめ工場などでコンクリートを部材の形に硬化させること。部材を現場で組み立てることにより、鉄筋を組み、型枠をつくる現場内でのプロセスの多くが不要となる。

建築文化の発信活動

当社は、財団法人の運営支援を通じて、過去・現在・未来をつなぐCSR活動により、社会に貢献することを実践してきました。その中で2つの財団法人が大きな節目を迎え、新たなスタートを切りました。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ —公益財団法人竹中大工道具館—

当館は、失われゆく大工道具を民族遺産として収集・保存し、更に研究・展示を通じて匠の技と心を後世に伝えることを目的に、1984年竹中工務店創立の地、神戸市中央区山手通に開館しました。今日まで収集した資料は3万点余に上り、創立30周年を迎え、既存建物では手狭になったため、2014年10月、新神戸駅近くに移転。「人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ」をテーマに建設された新館で、新たなスタートを切りました。



伝統を現在に「五感」で伝える

新館では「より五感に響く展示」をコンセプトにしています。実物模型を展示することで、見て・聴いて・手で触れて・匂いをかぐなど「五感」をフル活用して、大工道具の世界を実感できる空間にしました。

吹抜けにそびえ立つ唐招提寺金堂の柱と組み物は、堂宮大工が建てた実物模型で、実際の建物では間近に見ることができない組み物など伝統建築技術の素晴らしい実感できます。また、展示室ではこれまで収集した資料の中から選りすぐった約1,000点を紹介しています。ここでも、道具を見ながら、その仕組みや使い方が直感的に伝わるよう、模型や情報端末「情報ナビ」も組み合わせることで、大工道具に込められた匠たちの「技と心と知恵」をよりわかりやすく、深く感じてもらえるよう工夫しています。

伝統を未来につなぐ

新たに館内に設けられた木工室。「五感」で大工道具の世界を伝えるだけでなく、実際に「自分の手」でものづくりを体験することで、より「道具の魅力」や「つくることの楽しさ」を伝えたいという想いがありました。工作キットを使った木工体験や気軽に大工道具に挑戦できるイベント、「宮大工がいる博物館」という特色を生かした「鉋削り体験」など、初めて大工道具に触れる子どもから手仕事に興味のある大人まで楽しめるプログラムを実施しています。

こうした館内での展示に加え、館外での企画展も行っています。2014年はハーバード大学でも展覧会を行いました。伝統のものづくりの技と心が現在、そして未来に伝承される、またグローバルで多くの方に日本の伝統技術を知っていただく取り組みに一層力を注いでいきます。 www.dougukan.jp

建築・愉しむ —公益財団法人ギャラリーエークウッド—

建築文化が一般の人々により広く、深く浸透することを目指し、「建築・愉しむ」をコンセプトとして、2005年に東京本店に開設して以来、10年目を迎えました。2014年末までに75回の企画(展覧会)を開催し、入場者は21万名余に達しました。そして、この10年間の活動が評価され、公益社団法人企業メセナ協議会が主催する「メセナアワード2014」において、「メセナ大賞」を受賞しました。



建築文化をわかりやすく、今そして次世代へ伝える

当ギャラリーでは、楽しみながら遊び感覚で知らず知らずのうちに建築への興味はわくように、わかりやすく、身の回りの話題を取り上げたイベントを開催してきました。時には、建築と直接かわりない話題を取り上げています。登山家・野口健さんの「エベレストのゴミ展」やリサ・ヴォートさんの「シロクマ展」などでは、環境を身近に考えていただける機会となりました。ムーミンの絵本でよく知られている「トーヴェ・ヤンソン展」では、なぜあのキャラクターや物語が出てきたのかを掘り下げました。作家が、絵本だけでなく社会風刺雑誌のイラストや油絵、あるいは多くのエッセイや小説を書いたことをこの展示を通じて初めて知った方も多かったのではないかと思います。フィンランドの歴史や文化への理解も深まりました。

また展示期間中には、参加型のイベントを通じて「建築」という一見難しそうな話題に一歩でも近づいてもらうために、シンポジウムやワークショップ、街並見学会なども開催してきました。2014年の夏休み期間には、「絵本づくりのマイスター3人展」と合わせて、木製貯金箱やオリジナルワンピースづくりなど「ものづくり」の楽しさを、子どもたちが遊びを通じて体験できるイベントを実施しました。

「建築」は、一部の専門家のもものではありません。より多くの市民の方々に観て、参加いただき、意見を述べ合う「場」をつくり、新たな「何か」を次世代の人々に残していける活動を次の10年も続けていきます。 www.a-quad.jp

建築、土木、開発、その他の事業分野で、竹中グループの人材、設計、エンジニアリング、技術開発などあらゆるノウハウやリソースを活用。
安全・安心で豊かなまちづくりを通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

建築



海外



開発



エンジニアリング



概要

コンテンツ

ページ

現代の建築には、仕事や生活空間としての快適性や効率性だけでなく、地域文化・都市環境への配慮が求められます。周辺環境と調和したデザイン、社会的資産である建物の再生・価値創造など。当社は建築を通して、地球環境や社会に貢献したいと願うお客様の思いをかたちにするお手伝いをしています。

- サステナブル・ワークス®
- 総合力から生まれるデザイン
- 魅力再生®

P21

1960年の米国進出から半世紀を超え、欧米・アジアで20拠点を越えるネットワークへと拡大してきました。空港、超高層オフィス、ホテル、工場、美術館など多彩なプロジェクトの設計施工から技術指導、コンサルティング業務、資材調達まで。多岐にわたる事業活動で、お客様のグローバル展開をサポートしています。

- ヨーロッパ拠点
- アジア拠点・中国拠点
- アメリカ拠点

P25

国内主要都市の都市再生など様々なビッグプロジェクトで中核となるオフィスビルやホテル・商業・エンターテインメントの複合施設の企画や設計や施工を数多く手掛けています。また、自社開発事業、市街地再開発事業やPPP/PFI事業への事業参画などを通じて、当社は、都市・地域の再生、まちづくりの様々なステージに積極的に取り組んでいます。

- 市街地再開発事業
- PPP/PFI事業
- 海外開発事業
- 開発事例

P27

製造・物流施設の再構築や最先端医薬・研究施設の計画、地震対策などのリスクマネジメント支援、スマートコミュニティの実現に向けた次世代建物管理システムの開発、持続可能な社会を目指した大規模耐火木造建築の実現、放射線防護技術の医薬施設への展開など。最先端のエンジニアリングで社会とお客様のニーズに応えます。

- 製造・物流、最先端医薬施設
- 大空間建築、鉄道関連建築
- 企業のリスクマネジメント支援
- 次世代建物管理システム
- 大規模耐火木造建築
- 放射線防護技術

P29

お客様の想いをかたちに

建物に求められる機能は高度化、多様化しています。

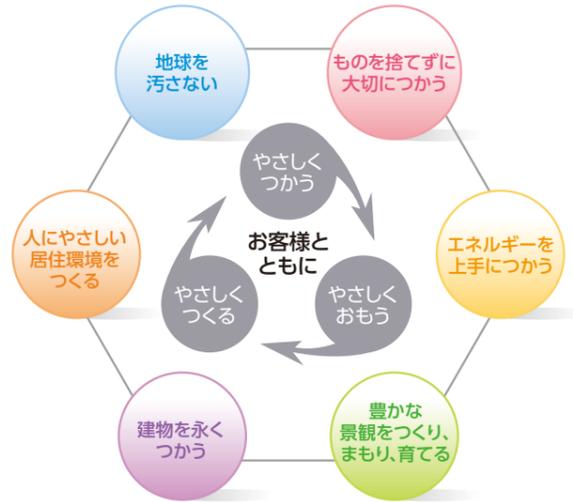
環境への配慮はもちろんのこと安全で安心、そして強靱でなければなりません。

更に当社は「人への優しさ」という視点を重視し、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。

サステナブル ワークス

当社が提唱する「サステナブル・ワークス[®]」とは、「お客様とともに環境に調和する空間創造を行うことを目指した建築への取り組み」を意味します。サステナブルな社会を次世代に手渡すための建築からのアプローチであり、地球環境や社会に貢献

したいと願うお客様の想いをかたちにすお手伝いでもあります。お客様が建物を「地球にやさしくつかう（運用）」ことができるよう、私たちは「地球にやさしくおもう（設計）」、「地球にやさしくつくる（施工）」ための様々な工夫をしています。私たちは、運用・設計・施工の全ての活動において、右記の6つの視点から評価し、お客様とコミュニケーションをとりながら進めています。



明治安田生命新東陽町ビル

一先導的な環境配慮型モデルオフィスとして機能する本社施設

生命保険会社の事務センターと研修宿泊所の複合施設です。執務スペースを大小4つに分割し、それらが高さ1.2mごとに連続したスパイラルフロアとなっています。その中央にあるアトリウムと外部光庭から、光と風を豊かに取り入れ、アトリウムを中心に人が動き、施設全体の一体感を高めています。アトリウムを利用した環境貢献技術への取り組みなどが、国土交通省の住宅・建築物省CO₂推進モデル事業に採択されました。

2014年日本建築学会賞(作品)受賞、第55回BCS賞受賞

低層大平面のスパイラルオフィス

組織変更や所属員の増減にフレキシブルな対応ができ、階で分断されずに部署を配置するため、低層で100m×100mの平面形状を選択し、執務スペースを大小4つの無柱の大空間に分割。それらを高さ1.2mの段差で連続したスパイラルフロアとしました。

建築・設備計画を融合した環境装置

建物外周部のバルコニー一部ダンパーで制御された外気を取り入れ口と任意開閉の窓から自然通風を取り入れ、執務スペースを通り抜けた自然風は、中央アトリウムの上部とソーラーチムニーから外部に排気します。アトリウムを建築・設備計画の融合を図った環境装置として、徹底した省CO₂を図りました。

自然との交感とコミュニケーションの活性化

オフィス空間の中央に配置した35m角の内部アトリウムの内側に17m角の外部光庭を設け、光と風を豊かに取り入れ、働く人々が自然と交感できる環境としました。またその周りに4つのフロアをつなぐライティングスロープを設け、働く人々のコミュニケーションの活性化を図りました。



設計・施工=竹中工務店(2011)



● 人にやさしい居住環境をつくる



光に溢れた、一体感を感じるオフィス

中央のアトリウムからは大容量の自然光が執務スペースに入ります。アトリウムを中心に執務スペースとライティングスロープの二重のアクティビティを形成します。利用者は施設全体を見わたすことができ、高い一体感を感じることができます。

● 建物を永くつかう



免震構造

構造は、耐震グレードが一番高い基礎部分での免震構造とし、大地震時にも建物全体が安全で継続使用が可能な、持続性の高い建物としました。

● 豊かな景観をつくり、まもり、育てる



地域・環境貢献としての豊かな緑化

できるだけ多くの植栽を施すために、外構にある駐車場部分も緑化しました。また、建物屋上や外壁面を積極的に緑化することで、上空から見たときには、緑にあふれた情景となっています。また、公開空地を設け、近隣の方々へ提供しています。

● エネルギーを上手につかう



高効率の放射空調

空調は、鋼板に小さな開口部を設けたパネルを使った、放射を併用したシステムです。空調機のドラフトを感じることが少なく、また、クールビズに効率的に対応できるシステムです。ハイブリッド空調などと併せ約45%の省エネルギーを達成しています。

● ものを捨てずに大切につかう



徹底した3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を推進

掘削土はふるい分け、産業廃棄物量を削減するとともに、良質土と分別したコンクリートガラは場内で再生砕石とし利用しました。また、建設副産物発生抑制活動、リサイクルヤードによる分別収集推進やエコキャップ活動、作業所緑化活動も推進しました。

● 地球を汚さない



建築+設備のユニット化

機械室に配置する設備機、配管、ダクトを地上でユニット化することで、建設現場での廃材の発生を最小限にしました。その他免震層内の設備配管のライザーユニット化、建築外装カーテンウォールのユニット化などにより、省資源化を図っています。

総合力から
生まれる
デザイン

資生堂銀座ビルは、銀座並木通りに建つ本社旧社屋の建替えとして、未来に向けた新しい価値の創造と、ブランド力の強化のためのクリエイティブ部門を集約した「価値創造拠点」として計画されました。

デザインコンセプトを「先進性・豊かさ・オリジン」とし、高い耐震性や環境配慮など最新工コ技術の導入とともに、外装から内装の細部にわたるまで普遍的な自然素材を用いながらオリジナリティの高い表現で展開し、社名の由来である「万物資生」の精神にこだわりました。特に基調となるデザインには、建築主を象徴する「花椿」や「唐草模様」を用い、建築主側のデザイナーとのコラボレーションにより「美」の価値観の共有を行いました。外装を一体で覆う特徴的なアルミシェードは、オリジナルデザインの「未来唐草」で構成。銀座という地の利を活かすとともに地域の発展に寄与する用途で全館構成され、今後、建築主のミッションである「美しい生活文化の創造」に向け、この創業の地より様々なクリエイティブが発信されます。



花椿型の吹抜けがあるエントランス。

資生堂銀座ビル

—「未来唐草」をまとった価値創造拠点—

第42回日本建築士会連合会賞受賞、2014年グッドデザイン賞
設計・施工=竹中工務店(2013)



まち並みに格調をプラスする、美しい外装デザイン

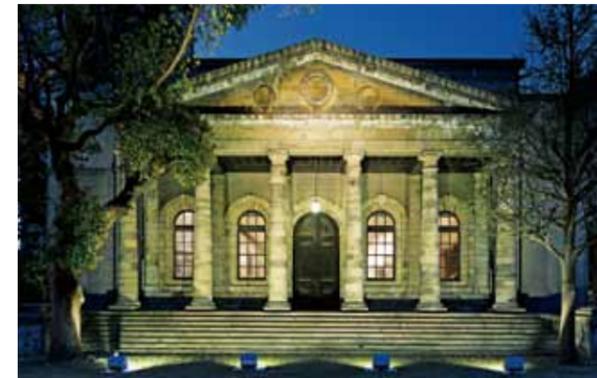


吹抜けに設置した書棚は、パーティションの役割も果たす

魅力再生

建物は私たちの生命や財産を守る器であるとともに、時を経て社会的資産に変化していきます。当社の推奨する「魅力再生®」とは、建築時の機能や美観を回復するだけでなく、新たな機能を付加することで資産価値を高め、事業性を向上させることを意味します。

環境保全やサステナブルな観点から、「スクラップ&ビルドからストック活用へ」という考え方が浸透しつつあります。時代のニーズに合わなくなった建物の基本機能・性能の向上だけでなく、歴史的な意義をもつ建物の保存と活用の両立、用途変更（コンバージョン）による新たな価値創造など、求められる機能も多様化、高度化しています。「魅力再生」には、当社が手掛けた数々の実績で培った設計力や技術力が活かされ、BELCA賞（ロングライフビル推進協会主催）などで高い評価を得ています。



旧桜宮公会堂

旧桜宮公会堂は、昭和10年に明治天皇記念館として建設された大阪市所有の洋風建築です（正面玄関は重要文化財）。近年は閉館していましたが、2階にガラスブロックの式場を挿入するなどの改修を施し、結婚会場として生まれ変わりました。第42回日本建築士会連合会賞受賞、2014年グッドデザイン賞
改修設計・改修施工=竹中工務店(2013)



西本願寺伝道院

1912年、伊東忠太設計・当社施工で創建。老朽化が進んだため、親鸞聖人750回大遠忌事業の一環として、修復工事を行いました。外壁を傷めずに耐震性能を高め、1世紀前の姿がよみがえりました。2014年重要文化財に指定。
第22回 BELCA賞受賞
修復設計・修復施工=竹中工務店(2011)



東京理科大学神楽坂キャンパス

都心の高密度な大学施設の老朽化に伴い、内外装及び耐震改修・省エネルギー化・周辺緑化を進め、安全で快適な21世紀型キャンパスとして再生しました。第23回BELCA賞受賞 改修設計・改修施工=竹中工務店(2012)

裏磐梯高原ホテル

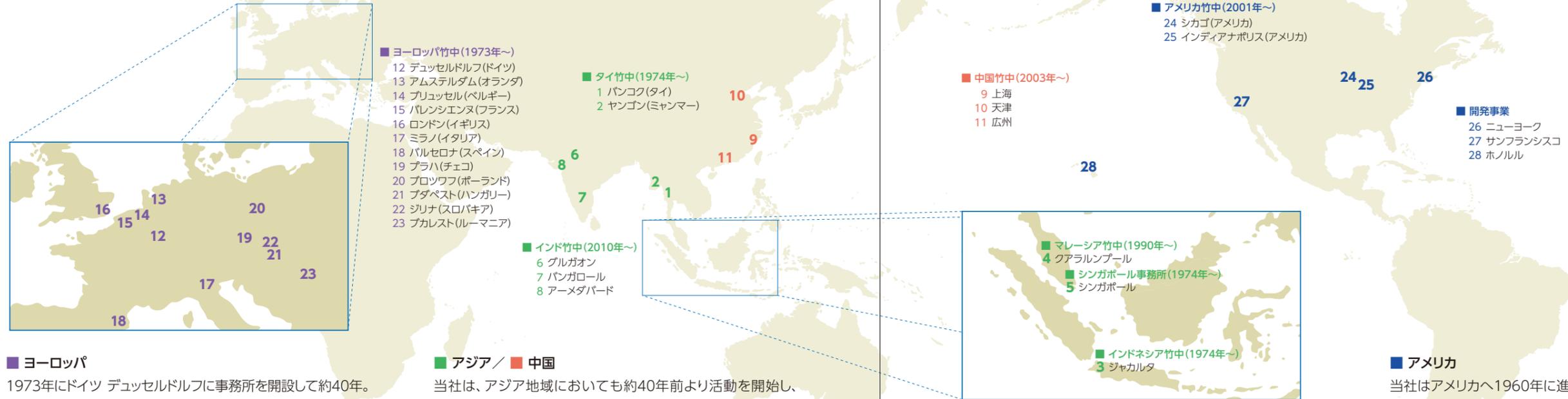
切妻屋根とウッドシングル葺きのデザインが周辺環境に調和し、多くの人に長い間愛されてきました。その佇まいを変えずにプログラムを一新し、豊かな時間を過ごせるスペースを随所に生み出しています。第23回BELCA賞受賞
改修設計・改修施工=竹中工務店(2012)



お客様のグローバルな展開をサポート

戦前からの歴史をもつ当社の海外活動は、1960年のアメリカ進出をきっかけに本格化し、現在では世界各地にネットワークを広げています。海外進出を目指す日本企業、各国公的機関や現地企業などをお客様に、空港から、超高層オフィス、ホテル、工場、美術館など、多彩なプロジェクトを手掛けてきました。設計施工はもとより、技術指導・コンサルティング業務・資材調達など、活動範囲も多岐にわたっています。

海外の主な営業拠点を掲載しています



■ ヨーロッパ

1973年にドイツ デュッセルドルフに事務所を開設して約40年。ヨーロッパ竹中は、これまで1,500以上の工事を手掛けてきました。現在では12カ国に展開する拠点で活動する約40名の派遣社員と約320名のローカルスタッフが連携し、ヨーロッパ域内への進出を検討されているお客様に対して、必要とされる情報をタイムリーに提供します。

■ アジア / ■ 中国

当社は、アジア地域においても約40年前より活動を開始し、1,500を超える工事を手掛けてきました。2014年にはタイ、シンガポール、インドネシアへの進出から40年目を迎えました。そして現在は、中国を含めたアジア地域への派遣社員は約200名、ローカルスタッフは約2,000名が活動しています。プロジェクトの規模や建築種別にかかわらず対応しています。

■ アメリカ

当社はアメリカへ1960年に進出し、海外事業の礎を築いてきました。現在はイリノイ、インディアナ、オハイオ、ケンタッキーの4州を事業エリアの中心としています。日系企業のお客様を中心に、新規進出時に欠かせない土地探しのご相談から、新築・増築・改修・アフターサービスなど、建物全般にかかわる幅広いサービスを提供しています。



GCヨーロッパ本社 (2013 ベルギー)



トヨタ自動車研究開発センター (2014 中国)



アクシア・サウス チカラン Tower1 (2014 インドネシア)



キャピタグリーン (2014 シンガポール)



アマダ シャンパーブソリューションセンター (2008 アメリカ)



ブリヂストン ハンガリー工場2期 (2014 ハンガリー)



現代自動車 欧州本社 (2013 ドイツ)



アマダバンガロール テクニカルセンター (2014 インド)



アルインコ タイ新工場 (2014 タイ)



イオンビッグアロースターSC (2014 マレーシア)



ヤクルトスラパヤ(モジョコルト)工場 (2014 インドネシア)



チャンギ国際空港 第1ターミナル (2011 シンガポール)



ハマド国際空港 王族・国賓専用ターミナル (2013 カタール)

都市・地域再生

東京の丸の内・日本橋をはじめとする都心部、名古屋駅前、大阪の梅田・中之島・阿倍野において、当社は、数々の都市再生プロジェクトの企画や設計、施工を手掛けてきました。

また、自社開発事業、市街地再開発事業やPPP/PFI事業などへの事業参画、まちづくり組織への参画なども積極的に行っています。

当社は、まちづくりへの様々な取り組みを通じて、国際競争力の強化、安全安心の向上、環境共生など都市が抱える様々な課題やニーズの解決に貢献しています。

市街地再開発事業

目黒駅前地区市街地再開発事業

東京都品川区の目黒駅前における延床17万㎡に及び大規模な市街地再開発事業です。当社は、2007年の事業協力者コンペにおいて、都心の憩い空間となる「森」を敷地内に有するオフィス・商業棟と住宅棟からなる複合施設提案により当選（JV）しました。事務局員を常駐させ、約130名に及び地権者の合意形成や行政協議などを実施し、2012年には設計・施工業務を担う特定業務代行者（JV）に選定されました。2013年には権利変換計画認可を取得、2014年8月に新築工事を着工し、2017年の完成を目指しています。



基本設計=日本設計
実施設計・施工=竹中工務店（JV）

PPP/PFI事業

大阪府立成人病センター

がんと循環器の高度先進医療を担う特定機能病院を整備、維持管理・運営する事業です。2017年春の開院を目指して2014年夏から建設業務を実施中です。2012年に大阪府立病院機構がPFI事業の入札を実施し、当社を代表とするグループが選定され、事業契約を締結しました。当社はPFI事業の代表企業として、設計・施工だけではなく、約20年にわたる事業期間のSPC管理や総合調整などの役割を担っています。



設計=日本設計・竹中工務店設計共同企業体
施工=竹中工務店

海外開発事業

グランドハイアット カウアイ リゾート&スパ

当社の自社事業として開発から施工・運営まで一貫して手掛けた海外開発事業プロジェクトで、ハワイ諸島で最も自然豊かなカウアイ島に1991年開業したリゾートホテルです。103haの広大な敷地に602の客室、各国料理のレストラン、スパ、「PGAグランドスラム」を13年間開催したゴルフコースなど充実した施設を備え、ホワイトトップ10リゾートに毎年ランクインする高い評価を得ています。地域に根ざした長年にわたる事業活動は、地域社会からも大きな信頼を集めています。



設計=Wimberly Allison Tong & Goo
施工=アメリカ竹中



グランフロント大阪

合計約7haの4街区にまたがる延床面積約57万㎡の大規模複合都市開発で、都市再生特別地区の指定を受けています。当社は企画・設計・施工だけでなく、共同事業者としての役割も担っています。(2013)

基本設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
実施設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
竹中工務店、大林組
施工=竹中工務店（JV）



新宿東宝ビル

旧新宿コマ劇場と隣地を一体的に再開発し、シンボリックな外観デザインをもつ、都市型ホテル、シネコン、店舗、アミューズメントからなる複合施設に生まれ変わります。隣接する広場を囲む街区を核とした「エンターテインメントシティ歌舞伎町」再生の起爆剤として期待されています。(2015)

設計・施工=竹中工務店



グローバルゲート

名古屋駅から南へ1km、国際交流拠点「ささしまライブ24地区」の中核施設となる複合都市開発（オフィス、ホテル・コンファレンスセンター、商業施設）です。2008年に事業コンペ当選以降、2017年の竣工に向け、企画・設計・施工の他、都市再生特別地区や環境アセスメントなどの行政協議のプロジェクト推進支援を行っています。

設計・施工=竹中工務店



西梅田・大阪駅南地区開発

大阪の玄関口である西梅田・大阪駅南地区の鉄道地下化による都市基盤整備を伴う面開発や、機能更新のための建替などにおいて、テナント誘致から企画・設計・施工など多様な役割を担い、約1kmにわたるまちづくり、駅前の活性化に貢献しています。



ビル名表示建物
設計・施工=竹中工務店（一部建物は施工JV）
（梅田1丁目1番地計画は基本設計=日本設計）



大手センタービル

当社が東京・大手町に手掛けた開発事業プロジェクトです。申し分のない立地条件を備え、大規模改修工事により、快適なビジネス環境を提供しています。

設計・施工=竹中工務店



One Fleet Place

2013年9月、当社グループの海外不動産事業の新たな展開を図るために取得した英国ロンドンのオフィスビルです。グローバル企業が欧州での拠点を置いている地域に位置しています。

写真のスケールは実際の建物とは異なります

最先端のソリューション

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。当社は、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまでトータルエンジニアリングでお応えしていきます。

製造・物流施設

医薬品や食品をはじめとする様々な製造・物流施設の新築はもとより、生産能力の増強、製造品目の変更、建物の老朽化対策、敷地の有効活用など、お客様の事業計画に適合した再構築計画を立案することで事業の継続的発展を支援します。施設の新設のみならず、建替や生産設備の移設・立ち上げまで含めた総合的な施設計画の提案により、「機会損失しない」工場の再構築を実現します。

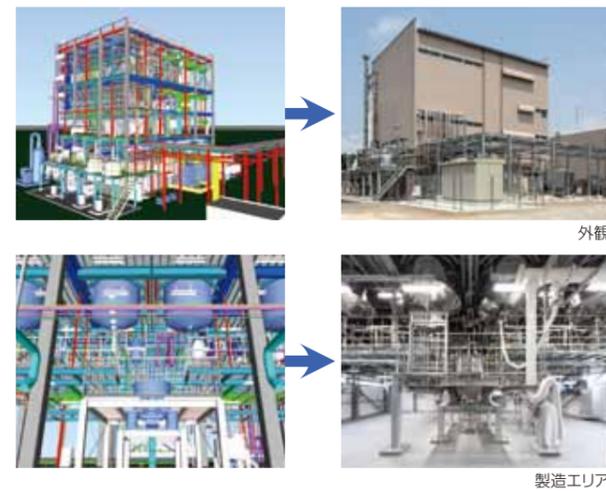
石福金属興業 草加工場における再構築



最先端医薬製造・研究施設

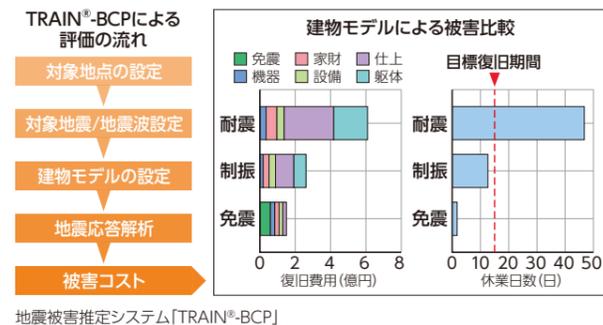
高活性医薬品、PIC/S、GMP、バイオハザードなど、最先端の医薬製造・研究施設に求められる技術は日々高度化しています。このようなお客様のニーズに応えるため、最先端技術の開発を進め、最適な生産システムをご提案し、総合施設計画を実施します。生産施設構築では、3Dモデリング活用により、お客様と細部に至るまで内容確認、生産設備・建築・建築設備の最適化を図ります。

3Dを活用した原薬製造施設(塩野フィネス福井事業所)



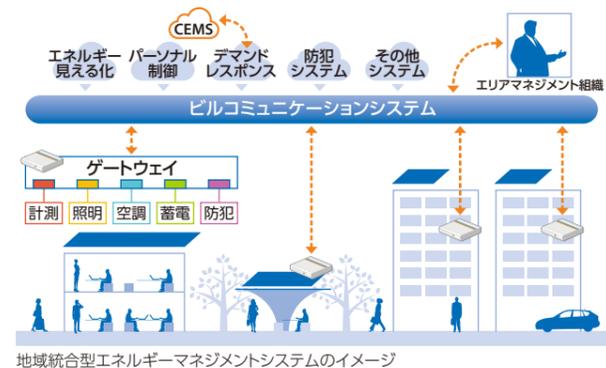
企業のリスクマネジメント支援

企業活動に影響を与える様々なリスクに対し、リスクを特定し、評価・分析を行い、対策立案・実施までの各ステップでトータルにお客様を支援します。地震被害推定システム「TRAIN®-BCP」や「津波シミュレーション」などのツールを用いたリスク分析・評価結果に基づき、免震・制振改修や液状化対策技術「TOFT工法®」などの対策を実施します。



次世代建物管理システム

スマートコミュニティの実現に向けた取り組みとして、建物内の空調や照明、防犯、各種センシングなどの設備システムをネットワークでつなぎ、そこで交わされる情報をクラウドで統合・分析するプラットフォーム「ビルコミュニケーションシステム®」を開発しました。最適な技術とノウハウをもつICT企業と連携し、ビル管理やエネルギー計画などに展開していきます。



大空間建築

日本初の空気膜構造による大型多目的スタジアム「東京ドーム」をはじめ、数多くのスポーツ・イベント施設を手掛けてきました。これらの施設の建設を支える技術には、デザイン、構造、設備、防災、施工といった各技術が相互に密接な関係をもちつつ効率的に機能する必要があります。その時代のニーズに対し最適なソリューションを提供し、更に未来シーズを見据えた施設を提案し続けています。



仮称:吹田市立スタジアム(2015)

大規模耐火木造建築

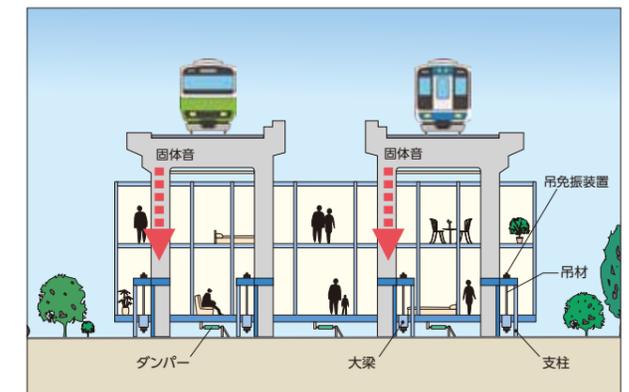
近年、木造建築は、森と人間が共生できるサステナブルな社会の実現、CO₂削減などに貢献できるとして注目されています。当社は、都市の大型木造建築を実現する耐火集成材「燃エンウッド®」を開発し、国土交通大臣の1時間耐火認定を取得しました。建築地、用途、面積に関係なく4階建もしくは最上階から数えて4層までを木造化できます。すでに、大阪木材仲買会館(大阪)、サウスウッド(神奈川)をはじめ、様々な建種のプロジェクに適用されています。



大阪木材仲買会館(2013)

鉄道関連建築

都市の利便性向上や新しいまちの魅力創出のため、駅ビルの新設や改修、駅前再開発、新線の設置など、様々な駅や鉄道関連施設の建築が話題になっています。鉄道高架下に振動のない空間を実現する「吊り免振工法」や線路上空に構築する「トラベリング工法®」など、軌道周辺や駅舎関連から再開発・まちづくりに至るまで、幅広い分野で取り組んでいます。



放射線防護技術

がんの早期発見に有効なPET検査施設では、最新の医学の知見や信頼の高い放射線防護技術が必要とされます。その中で、当社の設計施工実績は国内トップを誇ります。また、高エネルギー加速器施設の豊富な実績を踏まえて、最先端放射線がん治療である重粒子線・陽子線治療施設の実現に積極的に取り組んでいます。放射線医学総合研究所HIMAC新治療棟は、装置メーカーと連携して患者にやさしい開放的な治療室を実現しています。今後の重粒子線施設のモデルとなるものです。



HIMAC新治療棟

国内主要グループ会社

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。

■ 竹中土木 人と環境に優しいものづくり

竹中土木は、竹中グループの土木分野を担う会社です。経営理念に「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を掲げ、社会資本整備を通じ、社会の発展と人々の暮らしが豊かになるよう努めています。また、「環境と共生する社会基盤の構築に努め、社会の持続的発展に貢献する」という環境方針のもと、環境保全・省エネ・都市再生などのニーズに的確に応えるべく、「人へのやさしさ」を視点に企業活動に取り組んでいます。コーポレートメッセージでもある「人と地球のかけ橋に」という使命を全従業員が共有し、住み良い未来の環境づくりをお客様と一緒に歩んでいきたいと考えています。



和賀中部農業用水調整池

■ 朝日興産 高品質な建設資材・専門工事の提供と緑の環境提案

朝日興産は、国内外の調達ネットワークから確かな品質の建設資材や関連製品を提供するとともに、独自の専門技術による工事の施工を行うことで工事作業所の安全かつ円滑な運営に貢献しています。また、緑豊かな環境創造を目指し、緑化技術と建築技術を融合した、建物の屋上や壁面、室内のアトリウムなどの緑化工事も数多く手掛けています。街の景観や庭園に関する企画から施工・維持管理まで、一貫したサービスを提供しています。



御堂ビル屋上緑化

■ 朝日ビルド 熟練技能と革新技術との融合

朝日ビルドは、鉄筋・型枠・PC工事を手掛ける建築躯体工事の専門会社です。同社は「品質第一に知恵と汗で技術を磨こう、親切でしかも安全に」をモットーに、豊富な施工経験を生かした躯体工事のプロフェッショナル集団として活動しています。同社は大阪市此花区でプレキャストPC工場も運営し、階段や庇、バルコニーなどの小型PC部材を中心に製造を行っており、設計変更やお客様からの多様かつ高度な要望にも機動的に対応しています。また、近年では3Dを駆使したRCSソフトによる配筋・加工管理システムを実用化するなど、熟練技能者による“技”と革新技術を融合することにより、躯体工事の生産性向上と高い品質に寄与しています。



大阪市此花区にあるプレキャストPC工場

■ アサヒファシリティズ お客様の建物価値と安全を守る

アサヒファシリティズは、1969年の会社設立以来、竹中グループの中で建物ライフサイクルの運用段階における運営・維持管理事業を担っています。建物は、その機能を長期にわたって発揮してこそ優良な資産となります。建物の「価値」を導き出す最良のパートナーを目指し、設備の運転・保守、警備、清掃など建物管理の最適化を実現するビルマネジメント事業をはじめ、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、リスクマネジメントを担う保険代理事業と、お客様の建物価値を守るため、高品質できめ細かなサービスを提供しています。



同社技術研修センターでの研修風景

竹中グループの技術開発

社会が求める環境、安全・安心、生産革新にかかわる最先端の技術開発と、イノベーションを指向した独創的なシーズ技術の研究開発を竹中技術研究所を中心に推進しています。まちづくりのあらゆるステージでグローバルに先端技術・ソリューションを提供し、サステナブル社会を実現します。

竹中技術研究所

1953年に開設した竹中技術研究所は、常に時代のニーズを先取りした新技術の創出と実証フィールドとして、お客様に満足いただける価値を提供しています。建設にかかわる多様な専門分野の研究者が結集し、国内外の研究機関と連携しながら、世界トップレベルの研究を行っています。先進技術を身近に体感できる展示室には、お客様の課題解決と事業創出のヒントがあり、潜在的なニーズを掘り起こす情報発信の役割を担っています。当社は、今後のまちづくりに向けて、「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で技術開発に取り組んでいます。

 www.takenaka.co.jp/rd

安全・安心で合理的な防火技術

当社は防火技術の向上にハード・ソフトの両面で精力的に取り組んでおり、2009年には技術研究所内に日本最大規模の耐火実験棟を建設しました。最大荷重能力30MN（メガニュートン）、8時間加熱が可能な施設で、実大実験により火災時の詳細なデータを取得することができます。

当社は性能設計にいち早く取り組み、安全性と経済性を両立させた数多くのプロジェクトを創出してきました。耐火設計では、火災シミュレーションにより安全性を確認することで耐火被覆の合理化を図ることができます。避難安全検証手法では、精度の高いシミュレーション技術により避難時間や煙降下時間を正確に提示することで、火災時の安全な避難を確認することができます。更に2007年に開発した「あらかじめ検討」技術により、これまでテナントビルなどで用途変更に費やしていた手続き期間を大幅に短縮。お客様のニーズに迅速に対応することが可能となりました。



耐火実験棟



竹中技術研究所



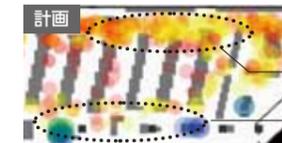
新合金を用いた制振ダンパー



高減衰オイルダンパー

長周期地震動ゆれ対策技術

長周期地震動に対して多様な技術を開発し、適用しています。新合金を用いた制振ダンパーは、従来の10倍の耐久性を有する鋼材ダンパーで、大地震を数回受けても性能が劣化しません。高減衰オイルダンパーは、世界最大の減衰力があり建物の揺れを低減します。



オフィスにおける部門間のコミュニケーション発生量

行動シミュレーション技術

人の行動シミュレーション技術は、部署の属性や室内環境などに対しての人の行動・生理状態を把握することでコミュニケーション評価と生産性評価を行うことが可能で、オフィスや病院などの快適設計に役立てられています。

凡例
インフォーマルコミュニケーション
● チーム内 ● チーム間
フォーマルコミュニケーション
● チーム内 ● チーム間

「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」などステークホルダーの方々との対話を深め、社会の課題を捉え、事業活動を通して解決を図ることにより、未来のサステナブル社会の実現に貢献していきます。

ページ

地球環境

美しい地球を未来に遺す



P35

地域社会

地域社会の持続的発展に寄与する



P37

お客様

お客様の事業の発展に貢献する



P39

従業員 / 協力会社

従業員、協力会社とともに成長する



P41

マネジメント

P43

グループ会社

P45

ステークホルダー・ダイアログ

P47

第三者意見

P48

2014年～2016年の主な活動計画と2014年の実績

ステークホルダー及び活動領域	2014年～2016年の主な活動計画	2014年の主な活動実績・具体的活動事例	
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然との共生 低炭素社会 資源循環 環境配慮活動の基盤 	<ul style="list-style-type: none"> 要素技術開発による多様な選択肢の確保やグループ内連携等によるスマートコミュニティの実現 省エネルギー設計、再生可能エネルギー利用の取り組みや要素技術の開発によるZEBの実現 地域・地球環境への負荷低減に対する積極的な取り組みによる持続可能な事業の基盤の強化 	<ul style="list-style-type: none"> スマートコミュニティ推進のための社内体制整備 (WEB)、「分散型コミュニティスペース」「執務スペースへの誘導システム」等の要素技術実証実験(特集1、WEB) 省エネルギー設計と再生可能エネルギー利用による低層建物のZEB設計 (WEB) 作業所における3R活動の継続、排出削減 環境シンポジウム、環境月間活動 (WEB)等の実施
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技術の普及と発展 地域との交流・社会貢献活動 建築文化の継承と発信 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技術の普及と発展」「建築文化の継承と発信」を軸とした各事業所における地域に密着した社会貢献活動の展開及び支援 財団法人の活動の継続支援と当社活動との連携強化 サステナブルな「まちづくり」を目指し、「都市」や「まち」が抱える社会的課題を把握と解決の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統の技巧や建築技術を次世代に伝える「子ども体験教室」や「なにわ出前塾」、「研修所を活用した教育プログラムの実施」などの地域貢献活動を実施 財団法人の活動の継続支援 (特集3) 及び財団と当社のノウハウを展開したコラボレーション企画の実施 スマートコミュニティの検討と実践を通して、「まち」が抱える課題の把握と解決に向けた検討の促進(特集1)
お客様	<ul style="list-style-type: none"> 品質の向上 ものづくりの実践 建物価値の向上 安全・安心・豊かさ 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の事業活動へ最良のソリューションの創出と提供 ものづくりの最前線での協力会社と一体となった品質のつくり込みによる品質の向上 建物とお客様の事業の安全・安心を確保する対応技術の開発・展開と総合BCP策定の支援 	<ul style="list-style-type: none"> バーチャルリアリティを活用したコミュニケーションによるお客様ニーズの的確な実現 協力会社と一体となった様々な生産性向上の取り組みによる高品質、安全かつ効率的な施工の追求(特集2) お客様の建物への幅広いライフサイクルサポートの実施 建物を使いながら耐震補強ができる工法や地震時シミュレーション (WEB) など安全・安心技術の更なる開発
従業員 / 協力会社	<ul style="list-style-type: none"> 明日を担う人材の育成 ワーク・ライフ・バランス 多様な人材 安全と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のキャリア形成や能力開発の実施及び支援と「想」を活用した建設技能者研修などによる若手入職者の育成 社会保険加入促進や竹中優良職長制度(マイスター制度)の充実、生産性向上など魅力ある建設業の実現を目指した施策の展開 健康で豊かな生活のためのワークライフバランスの推進 女性活躍推進など多様な人材の育成、活用促進 定年及び再雇用者の再就職支援など従業員への支援の強化 安全衛生管理活動の継続強化とメンタルヘルス、ハラスメント対応の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のキャリア形成、能力開発の継続実施 竹中優良職長制度の充実や入職者増加に向けた活動の促進 「時短推進キャンペーン」「従業員意識調査」などワークライフバランス確保に向けた施策の実施 女性活躍推進体制の構築等女性社員、女性技能者活躍推進 (WEB)のための環境づくり他、ダイバーシティ促進施策の実施 墜落災害や熱中症防止など安全衛生施策や研修所「想」を活用した安全研修の実施 (WEB)
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 組織統治 危機管理 公正な事業慣行 	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制の継続強化 グループ各社の状況に応じた教育啓発活動を実施、指導によるグループ全体のCSR・コンプライアンス知識、意識の向上 情報セキュリティ方針とセキュリティレベルに応じた基準の整備と、それに伴ったサプライチェーンも含めた対策を実施及び関係者への教育啓蒙 災害発生時に備えた社内対応体制の整備と強化の継続 法令改正にタイムリーに対応した研修を実施による法的リスクの予防 	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制の継続強化 「CSR・コンプライアンス月間」をグループでの実施に拡大 情報セキュリティ意識向上のためのeラーニングをグループ及び海外現地法人で実施 グループ全体による地域性を踏まえた個別実働防災訓練及び首都直下型地震に備えた休日訓練の実施 建設業法遵守、社会保険未加入会社への指導、「調達方針・活動指針」浸透のための活動の継続
グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> グループ相乗効果による付加価値を社会に提供するための事業間連携の強化 従業員の成長を促進し、いきいきと働くことのできる環境づくりとワークライフバランスの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 「グループICT推進室」の設置による事業間連携の基盤強化 (WEB) ローカルスタッフのための研修施設 タイ竹中技術訓練場「TAKSA」の設置 	
ステークホルダー共通	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーとの対話による社会の課題の把握と事業活動を通じた解決の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーダイアログやシンポジウム、協力会社巡回などを通じたコミュニケーションの促進と社会課題の把握 	

美しい地球を未来に遺す

「環境方針」、「生物多様性活動指針」と「環境コンセプト」に基づき、「自然との共生」「低炭素社会」「資源循環」への取り組みや、環境配慮の基盤となる啓発活動などを行っています。2004年に開始したステークホルダー・ダイアログや、環境シンポジウムなどを通して気付きをいただきながら、社会の期待に応えていくための活動を継続しています。

低炭素社会

ZEBに向けた取り組み

究極の省エネルギー設計と創エネルギーでネット・ゼロエネルギービル (ZEB) を目指しています。年度ごとに建物運用時消費エネルギーの削減目標を設定し、原則として設計した建物全てについてCASBEE (注) による環境性能の社内評価を実施するとともに、LEED (注) など多様な評価手法の活用を進めています。

2011年に竣工した明治安田生命新東陽町ビルは、ダンパーで制御された外気取り入れ口や手動開閉窓から中央アトリウムへの自然風の通り道、空調機械を融合するなど、建物全体を環境装置として徹底した省エネ設計としました。CASBEE評価でSランクのBEE=4.6、運用実績値としては、一般的なオフィスビルと比較して38%のエネルギー消費量削減、CO₂排出量にすると52%の削減を達成しました。

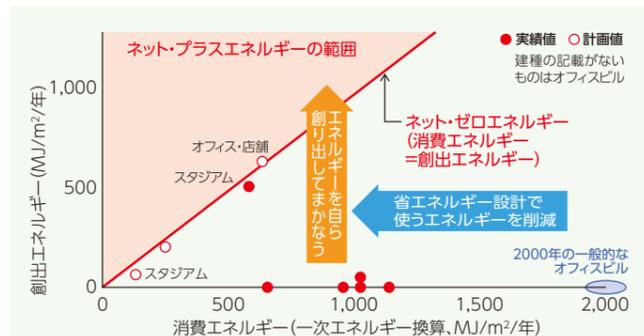
(注) CASBEE、LEED: 日本、米国で開発され活用されている建築の環境性能認証制度

材料由来のCO₂排出量を削減

—ECM®セメントの開発—

建築・構造物の主要材料であるセメントを製造する際に排出されるCO₂量は、我が国の総排出量の3%強を占めています。当社は、製造時のCO₂排出を従来の普通ポルトランドセメントと比較して6割以上削減できるECM (エネルギー・CO₂・ミニマム) セメントを他社と共同で開発しました。セメントの主成分であるクリンカーの製造時には、高温で焼成するために大きなエネルギーを要し、また原料の石灰石から多量のCO₂が発生します。ECMセメントは、産業副産物である高炉スラグをクリンカーの代替として60%~70%混合しています。高炉スラグを含有するセメントには品質上の課題がありましたが、セメント構成成分の最適化や専用混和剤の開発などにより、解決しました。

現在、地下構造物の杭や基礎へ適用しており、今後、更なる性能改善と適用拡大を目指します。



当社設計建物のZEBマップ
設計技術や設備技術により省エネルギーを図り、更に建物(敷地)内で太陽光発電等により、使うエネルギーと同等(ゼロエネルギー)あるいはそれ以上(プラスエネルギー)のエネルギーを創り出す。



再生可能エネルギーの活用

2013年11月に売電を開始した、当時国内最大70MWの鹿児島七ツ島メガソーラー発電所に出資しています。2014年9月には3社の共同出資で「KMTソーラー合同会社」を設立し、太陽光発電事業に本格参入しました。企業や自治体などに遊休地の活用を提案して創エネルギーの拡大を図っており、同年12月現在、4件の計画が進行しています。グループの竹中土木も自社の土地を活用した太陽光発電所を計画中で、2015年に稼働開始予定です。

環境メッセージ・コンセプト・長期目標

環境メッセージ・コンセプトと2050年に向けた長期目標を2010年に制定し、環境と調和する空間創造に努めています。

環境メッセージ

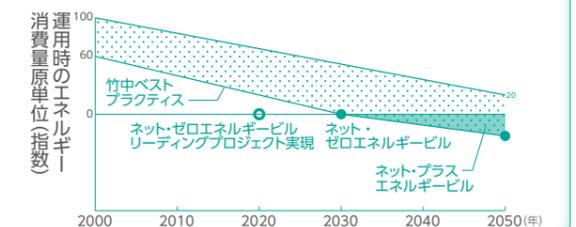
人と自然をつなぐ®

環境コンセプト

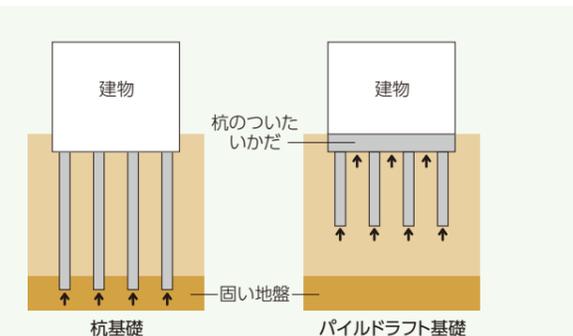
人の感性や創造性を高め、自然を活かし、ネット・ゼロエネルギービルからカーボンニュートラルな都市への実現を目指す

長期目標

2020年にネット・ゼロエネルギービルを実現
2030年に定着、ネット・プラスエネルギービルを目指す



詳細はWEBの「環境コンセプトブック」に掲載しています



パイルドラフト工法の概念図

杭の付いた (piled) いかだ (raft) という意味の、建物下の平面的な基礎と杭とを一体化して荷重を分担させる基礎工法で杭を短くできる。

資源循環

リデュースに向けた取り組み

—阿部野橋ターミナルビルタワー館(あべのハルカス)—
日本一の高さを誇る300mの超高層ビル「あべのハルカス」の建設には、膨大な物量の搬出入を伴うため、掘削残土、廃棄物の発生抑制と工事車両の削減などの環境配慮施工が重要な課題でした。

大量の排出量の削減例として、連続壁工法 (TSW工法) の掘削土を地下外周部へ再利用することで掘削残土搬出量を約50%削減し、パイルドラフト工法により杭の掘削深度を浅くし建設汚泥の発生量を約30%低減しました。また、床のコンクリート用型枠に鋼製のフェローデッキを採用し床や壁の一部をPC化することで、南洋材型枠の使用を大幅に削減しました。このような取り組みにより、工事車両台数 (10tダンプ約2,000台相当) が削減でき、CO₂排出量抑制につながりました。

こうした活動が評価され、平成26年度の3R推進功労者等表彰において国土交通大臣賞を受賞しました。

環境配慮活動の基盤

竹中環境シンポジウム

—爆発するアジア、その環境と建築・都市—

地球環境にかかわる社会的課題を抽出し、竹中グループの事業活動を通して解決につなげていくための対話の場として「竹中環境シンポジウム2014」を10月に東京本店で開催しました。6本支店に中継し、社外からお招きした約20名と全店で200名以上の従業員が参加しました。アジアの建築・都市をテーマとし、ハノイの住宅プロジェクトなどを手掛けられている建築家の小嶋一浩氏の基調講演に続き、社内外パネリストによるディスカッションが行われました。環境の質やライフスタイル意識の多様化、全地球的な視点、アジアの人たちとの継続的な交流の重要性など、多くのヒントをいただきました。



WEB掲載コンテンツ
www.takenaka.co.jp/enviro/vision/01

- 環境方針・生物多様性活動指針
- 環境コンセプトブック
- 環境関連の取り組み項目と目標 (2014~2016年)
- 活動事例
 - 自然との共生
 - 低炭素社会
 - 資源循環
 - 環境配慮活動の基盤 (啓発活動など)

地域社会の持続的発展に寄与する

事業活動を通じて培った「ものづくりの精神や知識・技術」を、地域の自治体、学校、NPOなどのステークホルダーと対話を行い、学会や教育機関への人的貢献、社内教育施設の解放・利用による知識・技術の普及、各事業所における地域社会とのコミュニケーション、企業財団の活動や季刊広報誌を通じた建築文化の継承と発信などを通して、次世代人材の育成と地域の発展に貢献していきます。

知識・技術の普及と発展

「なにわ出前塾」が日本建築学会のイベントに協力

2014年、「日本建築学会子ども教育支援建築会議」の主催する2つのイベントに当社大阪本店有志によるプロボノ活動「なにわ出前塾」が協力しました。

6月には東京で開催されたシンポジウム「子ども教育支援のプラットフォーム構築を考える」では、「なにわ出前塾」の代表者が出席して建築構造の出前授業の事例を報告しました。報告の中で「建築の授業が無い小・中学生に、建築とそれに関する仕事に興味をもって欲しい」と活動をはじめた経緯を説明しました。

9月には神戸市深江北町にある当社社員寮の敷地内で開催された小・中学生のための建築ワークショップ「深江パラダイス」に「なにわ出前塾」のメンバー及び社員寮居住者の有志が参加しました。子どもたちは段ボールや木材を使って秘密基地などを製作し、メンバーらはこれを指導しました。またミニシンポジウムも開催しました。

今後も「なにわ出前塾」をはじめ当社有志は次世代の育成に取り組んでいきます。

学生向け教育プログラムへの協力

—当社研修施設で大学生向け研修を実施—

体験型研修に重きを置いた「竹中技術実務研修センター おもひ 想」（兵庫県）では、ものづくりの楽しさを伝えることや若手技術者を育成することを目的に、建築を学ぶ学生を対象としたカリキュラムを設定し、研修を実施しています。

2014年は、前年までの大阪大学、神戸大学、武庫川女子大学に加え、京都大学と神戸松陰女子大学に対し実施しました。研修では、当社の技術者育成の取り組み状況・建築施工の流れの説明を受け、鉄筋コンクリート建物の施工中モックアップでの施工内容を体感しました。学生からは「現場の様子がよくわかり大変勉強になった」、「社会人のあるべき姿がわかった」などの感想が寄せられ、教授からも「経営方針や人材育成方法などにも重きが置かれ、研修目的に合致したプログラムだった」との評価をいただきました。



「なにわ出前塾」のデモンストレーション



「想」でのモックアップ見学

公益財団法人竹中育英会

—未来の社会を担う人材の育成—

1961年に設立した「竹中育英会」は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の深耕を図ることを趣旨に事業を続けています。主力の奨学事業では、毎年約180名の学生に奨学金を給付し、海外留学生への学資金支援も行っています。また、将来性のある建築系研究者に対する助成や、文化・芸術分野への支援も引き続き実施しています。

VOICE

京都大学工学部の共通科目の一つである「グローバル・リーダーシップ・セミナー」は、世界市場をリードする企業が、いかに企画立案し、いかに課題解決するのかについて学ぶ調査研究型科目です。2014年度は、竹中工務店さんに協力を賜り、先端科学技術の開発現場をまさに「見て、触れて、体得する」機会を得ました。400年の歴史を誇る企業がいかにその精神と技術を伝承してきたのか具体策を披露いただき、学生との討議や研修センター「想」の見学を通して、「最大たるより最良たれ」の企業精神に直に触れることができた有意義な一日でした。



京都大学大学院
工学研究科 講師
高取 愛子 様



「子どもたちのまち・いしのまき」で仕事体験



「子ども体験教室」での講師による実演

地域との交流・社会貢献活動

「第3回子どもたちのまち・いしのまき」に協力

公益財団法人日本ユニセフ協会から委託を受け、山形大学と協働で被災地の子どもたちの成長支援を通じた復興カリキュラム「子どもと築く復興まちづくり」を実施しています。2014年10月には、3回目となる「子どもたちのまち・いしのまき」を、宮城県石巻市の商店街の一角を借り切り、地元やボランティアの方々とともに、当社従業員も協力して実施しました。子どもたちは自ら仕事を探して働き、給料で買い物をするなど実際の経済の仕組みを疑似体験しました。

12月には、同じく3回目となる「未来の七郷まちづくり」を宮城県仙台市の七郷小学校で先生や学生ボランティアの皆様の協力を得て実施しました。これからも被災地復興に向け、未来を担う子どもたちを主役にした取り組みを支援していきます。

建築文化の継承と発信

子ども体験教室「木を削ろう」を実施

2014年10月、東京本店で子ども体験教室「木を削ろう」を実施し、保護者を含め約60名が参加しました。このイベントは、東京本店内のギャラリーエークウッドで開催中の「竹中大工道具館巡回展『日中韓 棟梁の技と心』」との共同企画として、鉋の薄削りで日本記録をもつ棟梁の阿保昭則氏を講師に招き、実現したものです。講師が鉋削りの技巧を披露すると、次いで子どもたちも実際に鉋削りや墨壺の線引きに取り組み、普段ではできない大工さんの仕事を体験しました。

今後も、当社は竹中大工道具館やギャラリーエークウッドなどの財団法人と協働して、伝統技術の伝承や建築文化の発信を行っていきます。

WEB掲載コンテンツ

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/02

知識・技術の普及と発展

- 教員研修への協力
- 小学生向け体験教室の実施

地域との交流・社会貢献活動

- 作業所における地域交流
- 環境配慮を通じた地域貢献

建築文化の継承と発信

- 季刊誌「approach」の発行 他

お客様の事業の発展に貢献する

お客様に満足していただける「安全・安心で魅力的な作品」を創り出し、社会の信用を得るために「品質保証体系」に基づいた、設計・施工段階での品質のつくり込みを行っています。また、設計段階でのバーチャル・リアリティ(VR)を駆使した、よりわかりやすいお客様への説明や、建物のライフサイクルを通じてお客様と対話をしながらサポートすることによりお客様の社会的資産としての価値の持続・向上に取り組んでいきます。

品質の向上

品質保証体系に基づいた活動

お客様の多様な期待を具現化し高い品質を実現するため、TQMに基づくプロジェクトの品質保証プロセスを標準フロー化した「品質保証体系」によって、設計・施工段階での品質のつくり込みとアフターサービスによる品質点検、お客様満足度調査のフィードバックなど更なる改善に努めています。

ものづくりの実践

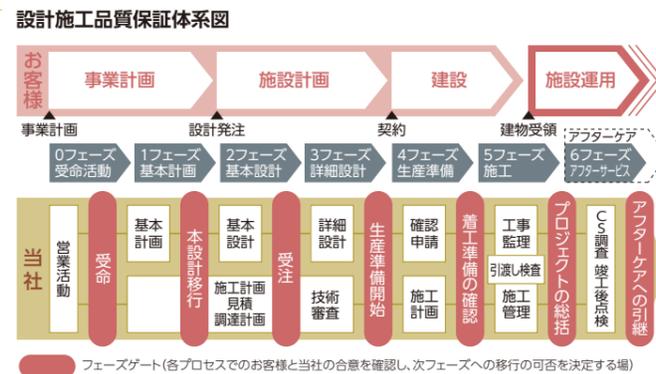
バーチャル・リアリティを駆使したものづくり

建築は単品生産で規模も大きく、作り直しができないので、どのような建物になるのか、事前にリアリティをもって確認、体感することが非常に有効です。当社では高い操作性に加えて画像精度や空間拡張認識も両立させたVR技術によって、これまでにないコミュニケーションの場を提供し、お客様に大変ご好評をいただいています。

「ブルーノ®」は、まだ建っていない建物の様子をまるで現実のような高品質イメージデータで表現したバーチャル・リアリティ・コンテンツです。パソコンやタブレットPCなどを使って、仮想建築空間の中でお使いになる方自身がご覧になりたい視点からご覧になりたい部分をじっくりと確認することができます。

「ブルーノ」を使えば、それまで長い時間をかけて打ち合わせした結果としての、建築空間がどのように見えるのかを、竣工に先立って高品質イメージで確認することができます。また、お客様がそのプロジェクトの関係者(例:エンドユーザー、お客様社内の上司や同僚)と容易に意思疎通を図るためのツールとして利用することもできます。

「ビジマックス®モバイル」は、お客様のオフィスで手軽に3Dドームバーチャルリアリティを体験していただける建築プレゼンテーションシステムです。エアドームスクリーンと



魚眼プロジェクタ、3Dメガネを使用して、建物の中に入って自由に動き回り、建築の素材感からディテール、空間の広がりまでを、リアルスケールの3D画像で確認していただけます。また、最大10名程度まで同時体験が可能です。「まさにその建物に入った感覚が味わえた」「図面ではわからなかった空間の意図がわかった」とご好評をいただき、お客様のニーズや問題意識をより早く、深く把握することにより、合意形成の高度化、迅速化につながっています。このような革新的な取り組みに対して、(一財)エンジニアリング協会からエンジニアリング奨励特別賞を受賞しました。

VOICE

東京タワーには毎日多数のお客様がお越しになるため、安全・安心が全ての活動の基本になります。竹中工務店さんには建設当初から一貫して見守っていただいておりますが、作業所の方々は、我々社員以上に東京タワーに愛着をもって仕事をされているという点で安心感があります。先日完成した耐震改修工事においても、屋外の高所作業という過酷な条件を乗り越えて無事に竣工を迎えることができました。社外の皆様の手も借りながら、これから100年先も魅力的な東京タワーであり続けるための取り組みを継続いたしますので、ご期待ください。



日本電波塔株式会社
執行役員 不動産部長
吉成 二男 様



建物価値の向上

一日も営業を休めない施設の魅力再生に貢献

お客様の大切な建物をより長く、より快適に使っていただくために、当社では建物の竣工後も、全国に配置している地区FMセンターにて、適切な時期の修繕・更新、新築時より更に性能をアップさせる魅力再生など、幅広いサポートを提供し続けています。

1958年に完成した東京タワーは、日本を代表する電波塔であると同時に、東京の中心に建っている建物であることから、環境問題や景観への配慮も欠かせません。5年ごとに行う塔体塗装は、建物が完成してから10回を数えています。また地震に強い建物とするために行われた耐震補強工事や、夜間の東京タワーを美しく見せるためのライトアップ「ダイヤモンドヴェール」の設置やフットタウン、展望台のリニューアル工事など、日本を代表する作品の

安全・安心・豊かさ

エストンブロック®工法

耐震補強では従来、RC壁や鉄骨ブレースを設置する工法が用いられてきましたが、施工に伴う騒音・振動・粉塵の発生や、大型部材の搬入や養生のために、施工時間の制約を受けてきました。本工法は、蝶々形の形状をしたブロックを組み上げることで、部材同士が噛み合う力が働き、方形のブロックでは不可欠だった横の配筋を不要とした耐震壁工法です。補強壁の設置場所に大人一人でもてる小型のプレキャストブロックを搬入し組み上げ、グラウトを充填するだけの工法であり、資材搬入による影響が小さく、最小限の場所で施工可能となりました。建物をお使いいただきながら、工事の影響を最小限に抑えて安全、安心、安価に補強することが可能です。日本ERI(株)の構造評定を取得しており、「改正耐震改修促進法」により耐震改修が急務になったホテルや病院だけでなく、オフィスや工場、商業施設などの需要に対応します。

WEB掲載コンテンツ

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/03

品質の向上、ものづくりの実践

- 医療施設の利便性を向上させる架構システム

建物価値の向上

- 免震改修で生まれ変わる「東北大学医学部3号館」
- 防振・耐震天井システム「OTO-LESS耐震天井」

安全・安心・豊かさ

- 地震時の室内の揺れをシミュレーションするシステム「TAFT®」

従業員、協力会社とともに成長する

当社は社是に「研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし」「上下和親し共存共栄を期すべし」を掲げ、従業員・協力会社が向上心や先見性を持ち、多様な人格・個性が尊重され、安全で働きやすい環境づくりを進めています。

そのために従業員や協力会社の代表者とのダイアログ、協力会社との絆を深める巡回、女性社員・女性技能者が中心となり施工を担う「なでしこ工事チーム」の活動などを通じて、様々な課題の共有と解決を図っています。

明日を担う人材の育成

入社後1年間の新社員教育

当社では、入社後1年間をかけた新社員が誠実な人間へと成長し、幅広い知識と当社の伝統精神を身に付けるための教育を実践しています。当社創立の地・神戸市にある教育寮での生活や経営層との懇談会、複数部門での指導担当者とマンツーマンでのOJTなどを通じ、企業理念をはじめ「ものづくり」への真摯な姿勢や建築生産のプロセスを幅広く体得し、一人ひとりの適性を伸ばす指導が行われています。また、海外現地法人へ選抜派遣する「新社員異文化体験研修」など社会環境や経営戦略、教育ニーズの変化に合わせ柔軟に改善・充実を図っています。この新社員教育の取り組みが、日本能率協会主催のKAIKA賞を受賞しました。



新社員寮会

学生を対象にした作業所体験見学会

当業界においては、建設技能者不足は深刻な課題です。その対応の一つとして、九州において取引がある協力会社で構成する「九州竹和会」の若手部会「竹せい会」と当社が連携し、就職活動を控えた学生を対象に、建設技能者の仕事を体験できる作業所見学会を開催しました。福岡と佐賀の専門学校や高校の先生・生徒43名が参加し、施工中建物の見学や協力会社の職長らから作業所での体験談を聞いた後、左官・塗装・配筋・足場組立などを作業員による直接指導のもと実際に体験しました。今後も若年入職者への対応や将来の建設業を担う人材の育成に協力会社とともに力を注いでいきます。



作業所体験見学会

左官体験



組合協議

竹中優良職長制度の強化継続

作業所での安全・品質の確保及び生産性の向上、若手技能者の育成と技術の伝承を図る目的で、「竹中優良職長制度」を運用しています。2012年度から開始し、2015年度には、14職種191名を「マイスター」として認定し、その中から顕著な貢献をされた21名に対し「シニアマイスター」として認定しています。「マイスター」、「シニアマイスター」には、報奨金の支給をするとともに専用のステッカーを授与し、作業所の範として活躍してもらっています。

ワーク・ライフ・バランス

従業員が心身ともに充実した状態で働けるよう社員組合と意見交換を行いながら様々な取り組みを進めています。2014年は2012年から毎年行っている「時短推進週間キャンペーン」を拡充して月間化しました。また会社や仕事に対する従業員の想いを把握し今後の施策に活かすため、全従業員を対象に「従業員意識調査」を実施しました。

VOICE

VOICE

育児で更に成長中!

子どもが生まれ、「まちづくり」への思いや誇りは更に強まったものの、「母親」としての役割が増え、24時間の配分に苦心する日々。そんな中、常に意識しているのは「メリハリ」です。仕事や家事などの「アウトプット」は効率的に。一方で、理解し支えてくれる家族・友人・職場の方々とは、感謝の気持ちを忘れず豊かな時間を過ごすことを心掛けていて、これが良い「インプット」になっています。時間に頼る働き方をしてきた私ですが、育児は「働き方」や「仕事観」を考え直し、更に成長する機会をくれた気がします。



株式会社竹中工務店
小谷 瑞江さん



ステークホルダー・ダイアログ



平均台歩行による朝の健康診断

多様な人材

女性活躍推進のための環境づくり

社会の課題や多様な価値観に応える建築を生み出すためには、幅広い人材がもてる能力を最大限に発揮していかなければなりません。当社では、性別、国籍、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが働きやすい職場環境の実現を目指し、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。中でも女性の活躍の場を広げるポジティブ・アクションを優先課題とし、「女性リーダー育成研修」の実施や全社推進体制の構築(本社に「ダイバーシティ女性活躍推進グループ」、全国7本支店と連携で「女性活躍推進担当者会」を設置)により活動を展開しています。更に、「女性社員の活躍の視点から」をテーマにステークホルダー・ダイアログを7本支店で開催し、職場レベルでの女性活躍の実践や職場風土・意識改革に向けて活動を行っています。また、(一社)日本建設業連合会が建設現場での女性活躍を後押しする取り組みとして創設した登録制度「なでしこ工事チーム」に5チーム登録し(2014年末現在)、作業所での環境づくりも進めています。

安全と健康

当社では、建設業で労働災害の発生頻度の高い「墜落・転落」災害の防止と熱中症予防を安全衛生管理活動の重点項目に位置付けています。「墜落・転落」災害は、その要因の一つとして「不慣れ」「油断」などによる不安全な行動や、「誤認」「思い込み」などによるヒューマンエラーにより発生しています。作業員が保護具や安全施設を正しく使用できるように安全帯の適正な使用方法の実地教育や立馬での昇降訓練を推進しています。また、その日の健康状態が災害発生や熱中症発症に影響すると考え、朝礼時に平均台歩行による平衡感覚を確認することで健康状態を把握しています。その成果として、立馬からの墜落災害や熱中症発症の減少に効果が出はじめています。今後もこうした活動を地道に継続していきます。

WEB掲載コンテンツ

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/04

明日を担う人材の育成

- 育成体系

ワーク・ライフ・バランス

- 各種支援制度

多様な人材

- ダイバーシティ推進の現況、女性技能者座談会の開催

安全と健康

- 健康ケア制度、労働災害防止対策の徹底、「想」での安全研修

当社は企業理念のもと「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得て、企業としての社会的価値を高めていくとともに、社会的責任を果たしていきます。そのため、事業活動を公平かつ効率的に行うとともに取り組みの状況を評価し、改善していくことができる体制・仕組みづくりを推進しています。また、グループICT推進室の設置など、グループ事業間連携の基盤強化も進めています。

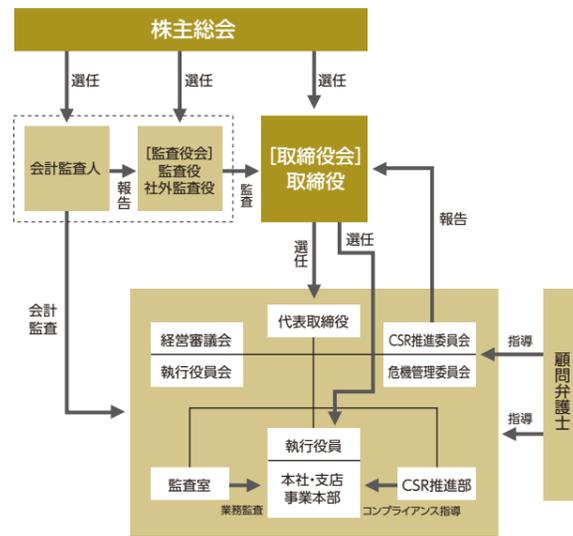
組織統治

経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関として、取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催しています。また、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図るため、2010年より執行役員制度を導入しています。これに加え、会計監査法人より、独立監査人としての公正・不偏の立場から監査を受けています。また、内部監査組織として監査室を置き、会社の業務、会計及び財産の実態について、正確性・妥当性の確認を行っています。

内部統制については、内部統制基本方針に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避・軽減及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発・訓練を実施しています。また、グループ会社についても、当社に準拠した企業行動規範を制定しました。各社に対して、管理体制を整備し、この行動規範を実践することを指導しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR・コンプライアンス体制を構築し、啓発活動を実施

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、CSR推進分担任員を委員長とするCSR推進委員会と、その下部組織でコンプライアンス分担任員を委員長とするコンプライアンス専門委員会、更に支店CSR・コンプライアンス委員会を設置しています。また本社にCSR推進部を設置し、各事業所にCSR・コンプライアンス推進責任者並びにCSR・コンプライアンスリーダーを任命して、教育・啓発の推進役としています。加えて当社内、グループ会社、協力会社・作業員などからの相談・通報窓口を複数設置し活用しています。CSR・コンプライアンスに関する具体的な教育・啓発活動としては、社内外の身近なCSR、コンプライアンス問題を取り上げる「CSR・コンプライアンスニュース」を2009年からほぼ月に1度、全従業員に配信しています。

更に、毎年11月に実施していた「CSR・コンプライアンス月間」を2014年に「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」に拡大。トップメッセージの発信、社外講師による「CSR役員セミナー」、情報セキュリティをテーマとした「e-ラーニング・寸劇・ミーティング」、各種相談・通報制度の周知などを、海外を含むグループ全体で実施した他、「e-クイズ」、「建設業取引適正化推進月間」に伴うプログラム、建設業法の映画視聴、CSR研修などを各社独自に実施しました。こうした活動を繰り返し行うことにより、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の深耕と拡大を図っています。

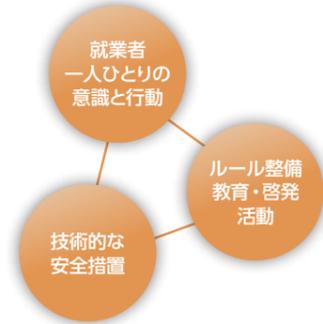


WEB掲載コンテンツ
www.takenaka.co.jp/enviro/news
 「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」を実施

危機管理

情報セキュリティ対策を継続して推進

当社はお客様の大切な情報資産を守るため、情報セキュリティ対策を実施しています。2014年度は、情報セキュリティ意識の向上のために実施している「e-ラーニング」を当社グループ会社、海外拠点へも対象を広げ展開しました。また、内勤・作業所におけるセキュリティ対策の点検、当社グループ会社及び取引会社の意識向上を図るための集合教育・巡回も継続して実施しています。今後も活動を継続・推進し、強化を図っていきます。



BCPに基づき、自然災害などにおける被害の最小化への取り組みを継続

当社は発生が予想される地震を想定し、対策本部を各本支店に設置し従業員・家族の安否確認、作業所・自社施設に加え当社施工建物の被災状況確認及び復旧などを全社的に行うBCPを策定しています。2014年は、東日本・中部日本・西日本の3地域で地域性を踏まえた個別実動訓練(従業員・家族の安否確認・津波被害への対応・徒歩出社帰宅訓練・作業所や自社施設と当社施工建物の被災状況確認復旧対応訓練)を実施し、従業員への訓練内容の浸透強化を図りました。また、11月15日には、首都直下型地震が休日に発生したことを想定し、全社連携を主な目的として全社合同震災訓練を実施しました。更に、大規模地震発生時における初動対応状況を対策本部メンバーが体験する災害シミュレーション訓練を導入しました。実施した4つの訓練には当社全従業員にグループ会社16社も含めた約11,000名が参加し、グループの総力を結集する機会にもなりました。今後も厳しい条件を想定した訓練を継続的に実施していくことでBCPのスパイラルアップを図り、有事の際の具体的な行動につなげていきます。



災害シミュレーション訓練風景(2014年10月)



合同震災訓練風景(2014年11月)

公正な事業慣行

関係法令の改正内容を周知・徹底し建設業法遵守への取り組みを継続

法令遵守に基づいた適切な企業活動を実践するため、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。2014年は国土交通省及び日本建設業連合会の指針を受け、引き続き社会保険未加入問題に対して協力会社などに周知・徹底を図るとともに、未加入会社への加入指導を行いました。また、国の定める「建設業取引適正化推進月間」(11月)に合わせて、作業所における建設業法、社会保険加入状況の確認などについてフォローしていることを期間を設けて確認し、全社をあげて適切に取り組むよう周知徹底しました。

適切な調達に向けた取り組みと、反社会的勢力への対応

企業が果たす社会的責任の一環として、「お取引先と一体となり社会・お客様のニーズに応える調達を推進する」とした「調達方針」及び「活動方針」を取引会社に説明するとともに、調達分野における明確な方針に基づいた活動を展開しています。反社会的勢力に対しては、従来から実施してきた作業所における対策協議会に加え、工事施工に関する取引先だけでなく、経費関連の取引先も含めて暴力団排除条項覚書の締結を行うとともに、幅広く情報共有して水平展開を図るなど反社会的勢力との関係遮断を徹底しています。



全地区竹和会総会で、調達方針・活動方針を説明(2014年2月)

WEB掲載コンテンツ
www.takenaka.co.jp/enviro/procurement
 調達方針

竹中グループCSRビジョンの実践のために、国内外のグループ会社で企業行動規範を定め、CSR推進活動を進めています。また海外現地法人では、各国・地域の文化や慣習にも配慮した活動を推進しています。

国内グループ会社の活動

竹中土木

地球環境

お客様

● お客様のニーズに応える

北海道清里町は日本有数のジャガイモ産地です。食用以外にもジャガイモからでんぷん成分の抽出用に多く栽培されており、その過程で発生する高濃度有機排水の臭気対策が課題となっていました。そこで同社では、この臭気対策に土木技術を応用した「超深層曝気法」の採用による技術提案と開発装置をJA清里町でんぷん工場に導入し、これにより臭気が大幅に改善しました。また、高濃度有機排水は肥料としても再利用されますが、臭気がより気になる夏場の収穫後の小麦畑にも散布できるようになりました。この実績により、現在では当初の5倍の処理規模まで増設されるなど、同社の技術力は環境改善に大きく役立っています。



でんぷん工場の臭気改善対応

裏磐梯高原ホテル

地域社会

● 地域との交流

同社では、年間を通じて様々なイベントを開催し、地域との交流を深めています。2014年5月には、延藤安弘氏のコレクション「絵本のチカラ」を開催しました。延藤安弘先生ご自身の語り、ピアノ演奏とのコラボレーションをご宿泊並びに一般のお客様にも楽しんでいただきました。また、同年9月より地域に密着した『会津の暮らしと伝統展』を開催し、会津平に400年間受け継がれてきた手仕事が生み出す美しい暮らしの道具を紹介するとともに、地域の伝統を伝える老舗の工芸品の一部を販売し、大変好評を得ました。また、どなたでも参加できるイベントとして、『私が感動した裏磐梯高原の風景』写真コンテストを開催し、写真家の中村征夫先生による審査で最優秀作品賞をはじめ、約50名の方々が優秀作品として選定されました。優秀作品はホテルに展示し、地域の多くの来場者でにぎわう館内で交流を深める良い機会となりました。



延藤安弘コレクション「絵本のチカラ」の展示会場

東京朝日ビルド

地域社会

従業員

● 建設業の魅力を高校生へPR!

深刻な労務不足が叫ばれる中、現在同社に在籍する30歳以下の若手社員が中心となり、将来の建設業の担い手の裾野を広げる活動を行っています。「ものづくり」の実体験を通じることにより建築の魅力や喜びを知ってもらうため、高校生を対象とした「インターンシップ」制度や、工業高校への「出前勉強会」を展開しています。今回は埼玉県立大宮工業高校を訪問し、鉄筋工事の配筋と組立作業の「磨き上げた技」を披露するとともに、学生の方々に実技指導を行いました。参加した皆様からは、「かっこいい」「どうしたらそんなにうまく組めるのだろうか?」といった感想や質問が起こる中、「ものづくり」の楽しさを十分に味わってもらえた様子でした。



工業高校での出前勉強会の様子

アサヒファシリティズ

地域社会

お客様

● 救護技術修得による緊急時への備え

同社は、「ハートフル・エンジニアリング」のスローガンのもと、建物施設を利用される皆様に安心と安全を提供しています。例えば、お客様から受託した管理物件において発生する様々な事態に備え、初期の救護活動などの際に冷静な対応で安心感を提供できるよう様々な訓練を行っています。法令訓練が必要な警備員はもとより、社員一人ひとりが率先して人命救助に貢献できるよう、AEDの使用法、救護活動の知識・技術を修得する訓練を行っています。また、お客様や施設利用者の皆様にも参加していただく訓練も開催しています。こうした活動により、同社社員が実際に救護活動に貢献できた事例も生まれています。



AEDを使用した救護訓練

海外グループ会社の活動

タイ

従業員

地球環境

● タイ竹中技術訓練場「TAKSA」がオープン

タイ竹中は2013年末、ローカルスタッフの教育を目的とした体験型研修施設「TAKSA」をバンコク郊外に設立しました。施設名は、タイ語で「技術」を意味する「タクサ」とし、その表記は、TAKENAKAの「TAK」とSustainable Abilityの頭文字「SA」を組み合わせています。コンテナハウスを切妻屋根で覆うというシンプルな形のTAKSAは、低コスト・短工期・将来の拡張性に加え、自然換気・自然採光を取り入れた省エネ建築です。現在は同地区の建築系若手スタッフを対象とした学習プログラム「初級コース」が開講されており、今後は中堅及び上級スタッフ、内勤部門、協力会社の教育を計画しています。将来的には近隣国の現地法人にも活用される施設になるよう、更なる充実を図っていきます。



タイ竹中技術訓練場「TAKSA」

ミャンマー

地域社会

● ミャンマーで「建物の耐震技術セミナー」を開催

タイ竹中ヤンゴン事務所は2014年、地元の学生や技術者を対象とした「建物の耐震技術セミナー」を開催しました。開催地となったミャンマーの2大都市、ヤンゴンとマンダレーは国土の中央を縦断する活断層のすぐそばに位置するため、大地震のリスクが非常に高いといわれています。そのため当社の耐震技術、特に免震・制震技術は高い関心を集めており、計4回のセミナーには延べ300名近い参加者が集まりました。当社のもつ免震・制震技術について説明した後、活発な質疑応答が行われ、地震への関心の高さを改めて実感する機会となりました。今後も同様の活動を続けながら、技術支援を通じてミャンマーの防災基盤整備に貢献していきたいと考えています。



耐震技術セミナー

ドイツ

地域社会

● ケルン応用科学大学で特別講義

2014年、ドイツ・ケルン応用科学大学建築学部の「日本人建築家講義シリーズ」の講師として、当社従業員が特別講義を行いました。同シリーズは建築家の坂茂氏や藤本壮介氏、阿部仁史氏らも講師を務めた人気講義です。当日は同学部の教授や助手・院生をはじめ約70名が聴講中、「あべのハルカス」など最近の作品事例紹介を交え、当社の作品づくり、創立初期より連綿と現代へ続く設計部の組織を紹介しました。欧米の建設会社とは異なる当社の設計・技術組織と作業所の在り方を知り、聴講生は大変興味深そうに聞き入っていました。ヨーロッパ竹中は、より多くの人に当社が培ってきた設計施工の作品づくりを知ってもらうことを目指し、今後もこのような取り組みを続けていきます。



ケルン応用科学大学での特別講義の様子

アメリカ

地域社会

● ホテル日航サンフランシスコの地域貢献活動

当社が所有・経営するホテル日航サンフランシスコでは、地域振興へつなげるために、数多くの地域貢献活動や社会貢献活動を実施しています。2014年は特製トートバックに毛布やぬいぐるみ、本を詰めて未成年のホームレスに送る「未成年ホームレス救済プロジェクト」や難病を抱える子どもに夢を与える活動を行っているメイク・ア・ウィッシュ財団の支援活動の一環として、ホテルビジネスに興味のある子どもたちへのホテル見学ツアーなどを行いました。乳がん基金への募金活動では、ピンクリボンホテル照明で壁面に浮かび上がる啓蒙活動を実施し、従業員と宿泊客より約1万ドルの寄付を行いました。多様性を許容するこの地で、地域ニーズに合致した社会貢献を今後も進めていきます。



ホテル壁面に浮かび上がるピンクリボン

サステナブル社会の実現に向けた取り組みを推進するため、様々なステークホルダーとの対話を行っています。当社の事業とのかかわりが深い社会的課題をテーマにし、それぞれの分野で活躍されている外部の有識者の方を招いて、課題解決に向けた議論を行っています。ダイアログで議論された内容はCSR推進委員会でも議論され、経営及び事業へのフィードバックも実施しています。

テーマ 有識者を交えた全社ダイアログ
ダイバーシティ —女性社員の活躍推進の視点から
2014年1月29日 於:東京本店

2014年のダイアログは、ダイバーシティの中から「女性活躍推進」について取り上げ、外部有識者として麗澤大学経済学部の木谷宏教授と帝人株式会社の日高乃里子人財部ダイバーシティ推進室長をお招きし、当社女性社員6名、男性社員1名のステークホルダーと意見交換を行いました。このダイアログを通じて、「女性活躍推進の目指す姿、ありたい状態の明確化」「経営層、マネージャー層の意識改革」「社員の意識改革(女性、男性共)」などの課題が浮き彫りになりました。



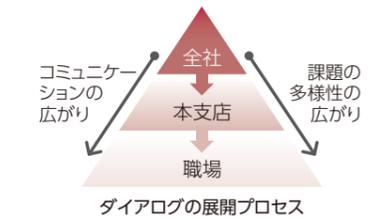
木谷教授 日高室長



全社ダイアログ

テーマ 本支店ダイアログ
ダイバーシティ —女性社員の活躍推進の視点から
2014年6月23日～11月21日

上記ダイアログを受け、人事部門とCSR推進部が主体となり、より多くの女性社員や部門長との対話を通して、多様性から生まれる様々な課題や地域独自の課題を共有すること、及び女性活躍推進の活動について「自分事化」してもらうことを目的として、7本支店でのダイアログを展開しました。具体的には、支店ごとに「女性社員」「部門長」とのダイアログの2部構成で計14回実施しました。女性社員ダイアログでは個々人が日常業務を行う中で感じる「活躍」への課題やその解決に向けてのヒントを話し合いました。部門長ダイアログでは女性社員の意見を共有し、それを踏まえ、部門長が考える課題、阻害要因と解決のヒントをグループごとに意見交換し、まとめるワークショップを行いました。ダイアログで出された課題や解決策のヒントについては、全社・支店・部門レベルに層別し、具体的な解決策・アクションプランの検討と実施をはじめています。また、今後、職場レベルでの女性活躍推進の意識醸成と課題抽出を行う「職場ダイアログ」に活動を深めていく予定です。



女性社員とのダイアログ



部門長とのダイアログ

昨年に引き続き「竹中コーポレートレポート」に対して第三者意見を執筆させていただきます。

竹中グループでは、昨年度に、「想いをかたちに 未来へつなぐ」という「竹中グループメッセージ」と、ステークホルダーとの対話を深めて「まちづくり」を通じてかたちにし、未来のサステナブル社会につないでいくという「竹中グループCSRビジョン」を定めています。「かたち」あるものを「つないでいく」という企業理念を実現するためには、「かたち」あるものをどのように活用し、どのように維持していくのかという点が重要です。この観点で、建築物・構造物の使用者や地域住民といったステークホルダーに対して、造る側の「思い」を十分に伝えていくこと、あるいは、ステークホルダーとの対話を通じて、ステークホルダーの「思い」を十分にみ取っていくことが必要です。本コーポレートレポートをそのための一つの手段として活用されることを期待します。

竹中コーポレートレポートは、竹中グループのCSRビジョンの達成に向けて実施しているさまざまな取り組みのショーケースとしての役割を果たしています。このような報告書の場合、毎年、同じような取り組みが掲載されてしまっていて、内容が固定化されるという懸念があります。しかし、竹中コーポレートレポートの場合、項目は昨年度のレポートとよく似ていますが、掲載されている取り組みの内容がほぼ一新されています。多くの現場を抱えて、さまざまに取り組みを進められているということであり、大変感銘を受けました。

また、竹中コーポレートレポートでは、財務データのみならず、非財務データの経年変化を開示していることも特長です(49-50ページ)。非財務データでは、施工時CO₂排出量原単位が若干悪化したことを除き、女性役付職人数、100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数、建設廃棄物最終処分率、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)のSランク・Aランクプロジェクト件数比率といった各指標のそれぞれについて、ここ5年間で最高の値となっています。突出したいくつかのモデル事例についてだけでなく、会社全体として着実に取り組みが進められている証しであると考えます。

ご意見を受けて

倉阪先生には、昨年に引き続き、サステナブル社会の実現に向けた私たちの取り組みに対する評価と貴重なご助言を賜りまして、ありがとうございます。昨年、当社グループは「竹中グループCSRビジョン」を制定し、ステークホルダーとの対話を深めて、社会の課題を解決する活動に取り組んでいるところです。このレポートでは、ステークホルダーとの対話を意識した取り組みを中心に紹介しています。今後も「対話」に基づく取り組みに努めてまいります。

倉阪 秀史 氏

千葉大学大学院人文社会科学研究所教授。1964年、三重県伊賀市生まれ。東京大学経済学部卒業後、1987年から1998年まで環境庁に勤務。1998年に千葉大学に移り、2011年より現職。環境経済論、環境政策論。著書に「政策・合意形成入門」「エコロジカルな経済学」「環境政策論」「環境を守るほど経済は発展する」など。



昨年度の第三者意見では、短期・中期の目標が達成されているかどうかなど、できなかったことを含めて、報告書と関連するWebページに記載すると、さらにわかりやすくなるのではないかと指摘させていただきました。毎年の目標ではなく3カ年の目標で記載されているため、目標の達成状況の記載ではなく、取り組みの進捗状況の記載となるということですが、進捗状況が定性的な記述にとどまっています(34ページ)。たとえば、直近の設計実績をZEBマップ(35ページ)に位置づけて、ネット・プラスエネルギーの領域に徐々に近づいている様子がわかるようにするなど、取り組みの進捗状況を定量的に測れるものについては、可能な限り定量的に示した方がわかりやすいでしょう。また、進捗状況の記載がレポートやWebの別の箇所に詳述されている場合もあります。34ページの表から、具体的な記述に飛べるように工夫をすると良いと思います。

道路や橋りょう、公共施設など、全国的にさまざまなインフラの長期的なマネジメントが課題となっています。これからの建設業は、新しく建造物・構造物を作るだけでなく、すでに建設されている建造物・構造物をメンテナンスするという役割も重要です。また、2015年は、2020年以降の温暖化対策の国際的な枠組みを決める重要な年にもなっています。建物のライフサイクルにわたるエネルギー効率、その設計段階での取り組みに大きく規定されてしまいます。エネルギー効率の悪い建物やインフラが新規に建設されることがないようにするという観点からも、建設業の役割が大変重要です。竹中グループが、新しい時代の建設業を先導するよう、今後とも、その実力を発揮することを期待いたします。

取り組みの進捗状況については、ご指摘にもありますように、可能な限り定量的に示すことや、わかり易くするための工夫を行い、より信頼性を高めるよう改善してまいります。最後にお願ひになりますが、今後の活動やレポート作成の参考にさせていただくため、WEBアンケートを設けております。皆様の率直なご意見・ご要望をいただければ幸いです。

CSR推進部長 佐藤 経生

損益計算書・貸借対照表(連結)

(百万円)

	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013	第77期 2014
受注高	825,084	929,542	1,004,492	1,214,335	1,418,103
売上高	1,055,498	976,612	998,381	1,020,956	1,150,663
営業利益	21,884	11,106	△1,369	11,525	27,741
営業利益率(%)	2.1	1.1	△0.1	1.1	2.4
経常利益	22,632	10,962	12,595	21,709	38,367
当期純利益	5,354	2,273	6,122	7,162	23,545
純資産	328,092	308,135	350,884	438,468	471,436
総資産	939,712	899,718	977,735	1,105,029	1,240,256

その他の財務データ(連結)

(百万円)

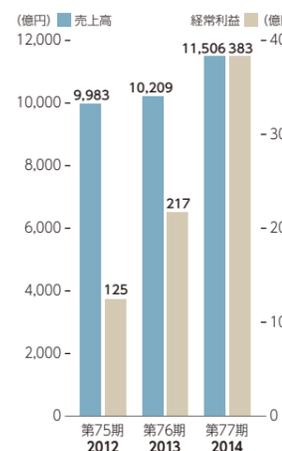
	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013	第77期 2014
営業活動によるキャッシュフロー	87,968	55,933	△10,610	△929	14,674
投資活動によるキャッシュフロー	△11,733	△14,082	△9,275	△18,646	△5,207
財務活動によるキャッシュフロー	△62,873	△7,262	△5,792	8,294	12,984
研究開発費(億円)	73	71	64	55	57
設備投資(億円)	96	55	99	263	272
自己資本利益率(ROE)(%)	1.6	0.7	1.9	1.8	5.2

事業別売上高(連結)

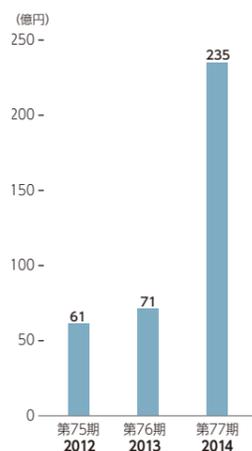
(百万円)

	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013	第77期 2014
建設事業	992,097	910,646	921,188	939,100	1,063,666
開発事業	31,701	32,627	42,206	45,929	48,287
その他	31,700	33,338	34,986	35,926	38,709

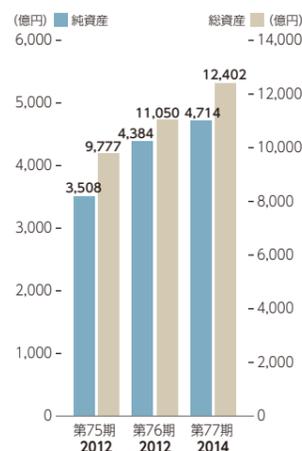
売上高/経常利益(連結)



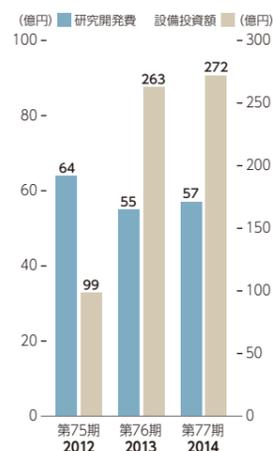
当期純利益(連結)



純資産/総資産(連結)



研究開発費/設備投資額(連結)



地域別売上高(連結)

(百万円)

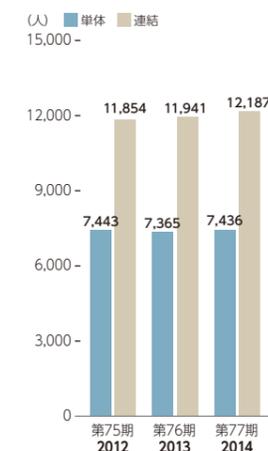
	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013	第77期 2014
日本	974,940	856,868	861,700	872,155	960,443
アジア	41,652	63,462	91,575	90,399	129,903
欧州	20,363	14,662	17,274	25,260	33,308
北米	10,213	11,995	17,493	23,289	25,921
その他	8,328	29,623	10,337	9,851	1,086

非財務データ(単体)

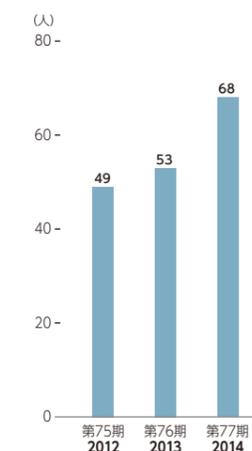
	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013	第77期 2014
従業員数(人) (連結)	7,829 (12,176)	7,623 (12,016)	7,443 (11,854)	7,365 (11,941)	7,436 (12,187)
従業員平均年齢(歳)	44.7	44.6	44.6	44.5	44.7
平均勤続年数(年)	20.6	20.5	20.4	19.5	20.2
女性役員職人数(人)	25	36	49	53	68
度数率 (休業4日以上災害) ^{※1}	0.83	0.75	0.62	0.75	0.55
施工時CO ₂ 排出量 原単位(t/億円) ^{※2}	10.9	10.0	10.4	10.3	10.8
建設廃棄物最終処分率 (重量%) ^{※3}	9.1	3.4	4.2	3.9	3.2
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%) ^{※4}	64.3	56.0	60.9	69.0	78.5

※1 100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数の割合。
 ※2 施工高あたり。
 ※3 建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない。
 ※4 Sランク及びAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト。

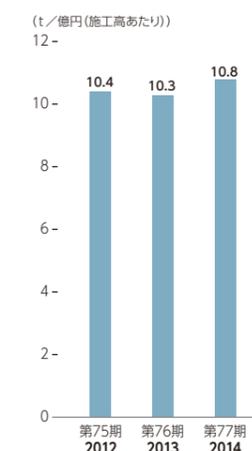
従業員数(単体・連結)



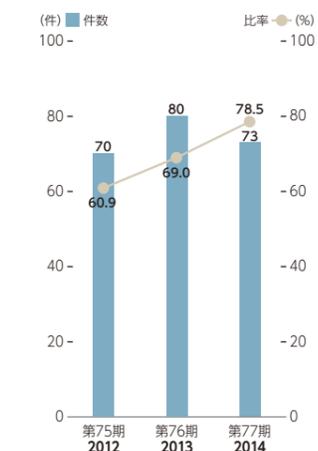
女性役員職人数(単体)



施工時CO₂排出量原単位(単体)



CASBEE S・AランクPJ件数/比率(単体)



想いをかたちに 未来へつなぐ



株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北海道支店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東京本店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東関東支店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北関東支店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京都支店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神戸支店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四国支店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広島支店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九州支店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国際支店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開発事業本部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

www.takenaka.co.jp



FSC®認証紙と大豆油インキ(Non-VOC)を使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。

Cat.No.010001 2001504CA